

マツカサススキ *Scirpus mitsukurianus* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ1~1.5 m。茎は鈍3稜形。葉は線形、扁平で幅4~8 mm。果期は8~10月。花序は2~3個の分花序からなり、側生のは小さく、頂生のは大きい。褐黒灰色の小穂を10~20個つける。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

平地の河岸などの湿地に生育する。

4. 生育状況

浜松市、磐田市、吉田町などに生育する。産地は限られていて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸や河川の開発 (13、14) で生育地の消失や個体数の減少が懸念される。

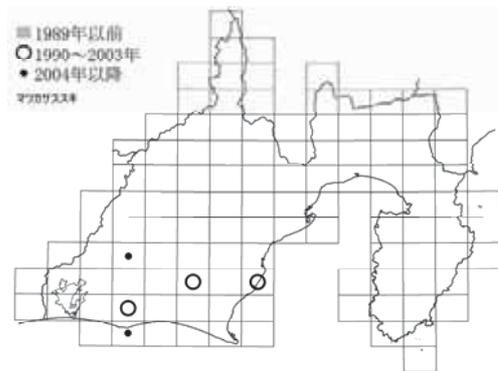
6. 保護対策

海岸開発や河川の護岸工事などに際しては生育地の湿地植生の保護に配慮することが望ましい。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2013年7月28日 内藤宇佐彦



エゾウキヤガラ *Bolboschoenus koshevnikovii* (Litv. ex Zinger) A. E. Kozhev. (=コウキヤガラ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さは40~100 cm。根茎は長い匍枝を出す。葉身は線形で幅2~5 mm。稈の先に無柄の小穂を1~6個頭状につける。花柱は2岐する。果期は7~10月。果実はレンズ形で光沢のある褐色である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア (サハリン、アムール) に、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

海に近い湖沼や河口部の浅水域に生育する。

4. 生育状況

御前崎市と浜名湖周辺に生育する。

5. 減少の主要因と脅威

湖岸開発 (12) や池の埋め立て (12) など減少傾向にある。

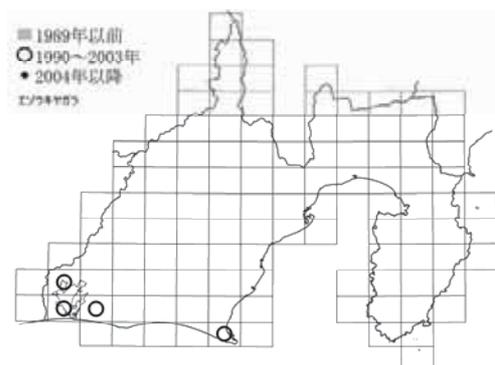
6. 保護対策

生育地である湖岸などの湿地植生を保護することや池の埋め立て回避が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1997年5月25日 内藤宇佐彦



ケシンジュガヤ *Scleria rugosa* R. Br. var. *rugosa*

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

一年草。高さ10~30 cm。茎は叢生する。茎葉は軟らかい白毛が密生する。葉身は線形で長さ5~15 cm。葉鞘に翼はない。分花序の柄は湾曲する。果実は球形で径1.2~2 mm、灰白色で光沢がある。本種の変種のマネキシンジュガヤは茎葉が無毛である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、マレーシアなどに、国内では本州(栃木県以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の痩せた土壌でしみ出る程度の水湿地に生育する。

4. 生育状況

産地は少ない。産量は少ない。生育可能な範囲が狭く、産量は年による消長があり、植生遷移の圧力を受けて減少している。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発(15)が主要因である。湿地を踏み歩く踏圧(51)も生育の脅威である。植生遷移(54)も脅威である。

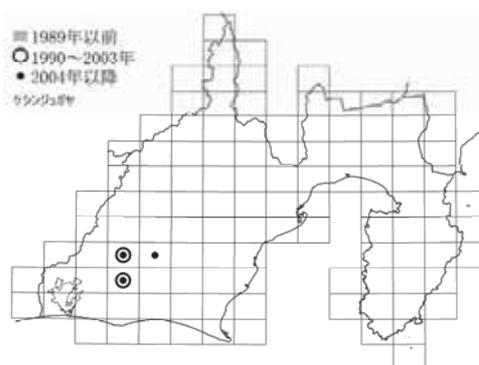
6. 保護対策

湿地の開発をする時には、確認調査を果期に行う必要がある。踏圧を防ぐために木道を敷設することも重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2014年9月23日 宮崎一夫



コミヤマヌカボ *Agrostis mertensii* Trin.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。叢生する。高さ10~30 cm。葉身は内巻きして糸状になる。花期は7~8月。ミヤマヌカボによく似るが、葯は楕円形でより短く、長さ0.4~0.7 mm、多くは護穎の長さの2/5より短い。芒は長さ2~3.5 mmとやや短く、護穎の中央部よりわずかに下から背面に突き出す。

2. 分布

国外では北半球の高山及び寒帯地方に、国内では南千島、北海道、本州(中部の高山)に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯から高山帯の岩場、砂礫地に生育する。

4. 生育状況

南アルプスに生育し、塩見岳で記録がある。類似種のミヤマヌカボは南アルプスの各地に生育する。

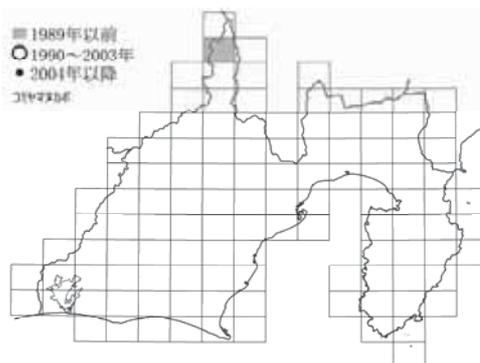
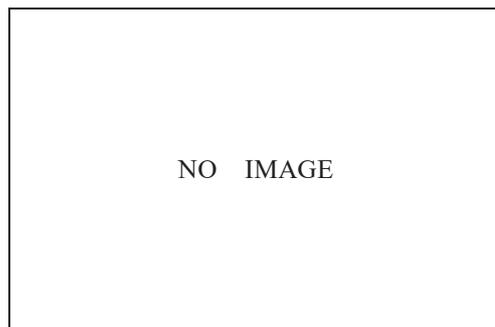
5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ(51)、シカ食害(52-1)、生育環境の変化による植生遷移(54)が脅威である。

6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。

(斎藤 猛)



コウヤザサ *Brachyelytrum japonicum* (Hack.) Hack. ex Honda

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ40~70 cm。稈は細い。葉は薄くて細長く、葉面や縁に軟毛がある。花期は7~8月。円錐花序は狭長で直立し、小穂はやや数が少ない。護穎は狭披針形で芒は長さ10~15 mmある。

2. 分布

国外では韓国(済州島)、中国東部に、国内では本州、九州に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

山地の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

富士宮市、裾野市、浜松市北区などによく生育する。西部ではまとまった個体数が確認された所もあるが生育適地の減少がみられる。

5. 減少の主要因と脅威

生育地が人里に比較的近いため山林開発(11)や土地造成(23)の危険性が指摘される。

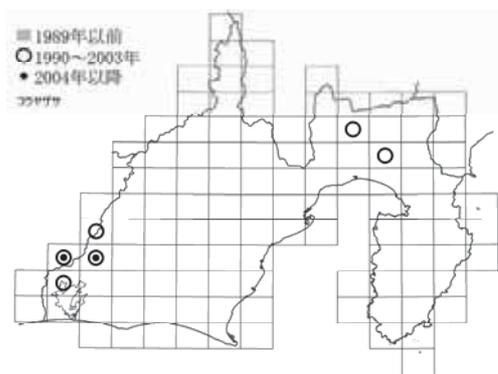
6. 保護対策

イネ科の地味な植物で見落とすことがあるので、生育地が開発される場合は注意が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2017年9月15日 湯浅保雄



ザラツキヒナガリヤス *Calamagrostis nana* Takeda

subsp. *hayachinensis* (Ohwi) Tateoka

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 絶滅危惧IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ20~40 cm。葉は基部の近くに集まる。葉舌は2 mm以下。円錐花序は直立して1小花からなる。花序枝や小穂柄はざらつく。芒は短く小穂の外まで伸び出すことはない。小穂は淡紫色または黄白色。基毛は護穎の半長以下。近縁種のヒナガリヤスは花序枝や小穂柄がざらつかず平滑である。

2. 分布

日本固有亜種で、本州(中部と早池峰山)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。静岡県は南限自生地である。

3. 生育環境

高山の乾燥した草原に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、1936年に間ノ岳の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

産地が局限(61)しているためと思慮される。

6. 保護対策

産地が確認された場合は、踏圧などの悪影響を与えないような施策を行う。

(宮崎一夫)

NO IMAGE



オオトボシガラ *Festuca extremiorientalis* Ohwi

(=オオトボシガラ、トウトボシガラ)

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

大型の多年草。高さ 80~120 cm。細く長い根茎から茎を単立、あるいは数本束生する。葉は長さ 20~30 cm、幅 5~12 mm。花期は 6~8 月。花序は大きく 20~30 cm。枝は節に 2~3 個ずつつき、横に広がって先は垂れる。小穂は長さ 5~7 mm で 4~5 小花からなる。護穎は長さ 5~6 mm、芒は 4~7 mm になる。

2. 分布

国外ではシベリア東部、中国北部に、国内では南千島、北海道、本州 (中部以北) に分布する。県内では中部 (大井川源流部) に分布する。

3. 生育環境

温帯、亜高山帯の谷筋。

4. 生育状況

過去には大井川源流部での記録があるが、前回 (2004 年) 調査でも今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

斜面崩壊や出水 (55) による生育地の消失が減少の主要因と考えられる。

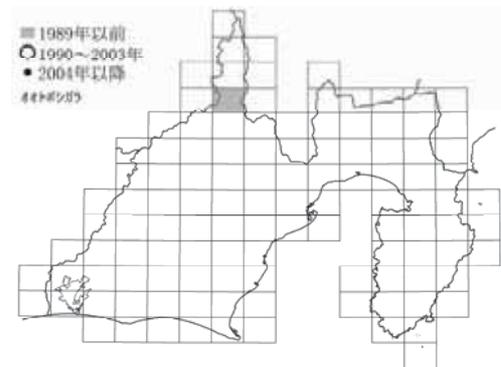
6. 保護対策

生育が確認されたら、生育地盤の安定を図ること。

(湯浅保雄)



長野県 2018年6月22日 室伏幸一



ヤマトボシガラ *Festuca japonica* Makino

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~60 cm。茎は細くて多数束生。葉は長さ 5~15 cm、幅 1.2~2.5 mm。花序は長さ 40~60 cm ほどで各節から 2 本ずつの枝を出す。枝の先に 1~4 個の小穂をまばらにつける。小穂は 3~4 個の小花からなる。花期 6~7 月。類似のトボシガラでは、枝は各節から 1 本で出る。また、護穎の先端から 6~9 mm の芒が出る。ヤマトボシガラには芒はない。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、台湾に、国内では本州 (中・北部)、四国、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯落葉樹林の林内や林縁。

4. 生育状況

1990 年前後には富士山麓の広葉樹林内で確認されている。今回の調査で確認できなかったのは調査不足のためと思われる。

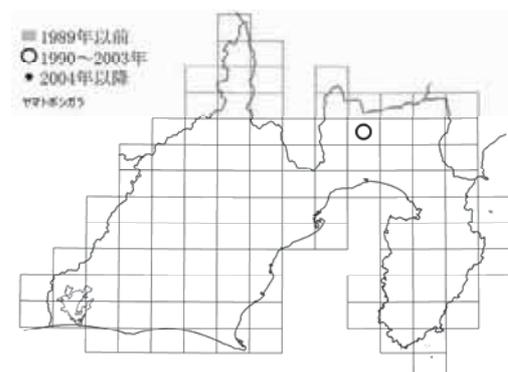
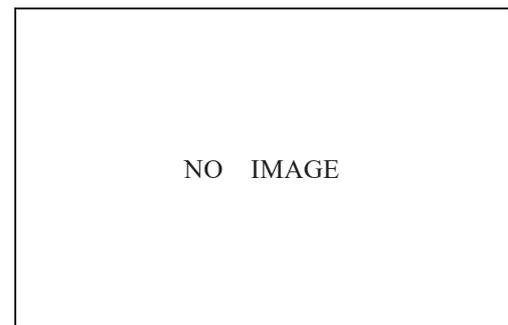
5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) とシカによる踏みつけや食害 (52-1) が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地を柵で囲みシカによる害を防ぐこと。

(湯浅保雄)



ハクサンイチゴツナギ *Poa hakusanensis* Hack.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~70 cm。短い根茎がある。葉鞘は平滑。基部の葉の葉鞘は口近くまで合着する。花期は 7~8 月。花序は深く垂れ、枝はほぼ平滑。小穂はまばらにつき、長さ 5~7 mm、葯は長さ 0.8~1.5 mm、護穎の長さの 1/3 以下。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では中部（南アルプス）に生育する。

3. 生育環境

亜高山帯から高山帯の草原、樹林下に生育する。

4. 生育状況

南アルプスに生育し、間ノ岳、小河内岳、三伏峠、荒川岳、東岳などで記録がある。

5. 減少の主要因と脅威

シカ食害 (52-1)、生育環境の変化による植生遷移 (54) が脅威である。

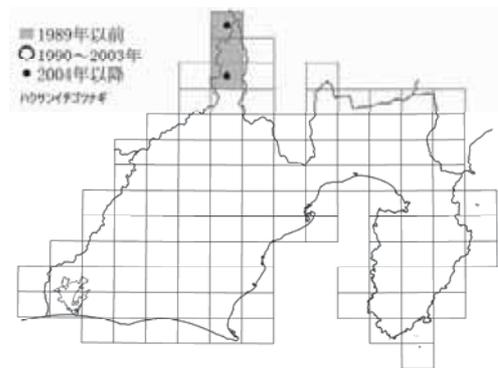
6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地にはフェンスなどの対策が必要である。

(斎藤 猛)



静岡市 2019年8月21日 室伏幸一



ムカゴツヅリ *Poa tuberifera* Faurie ex Hack.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~40 cm。根茎はなく、基部の 2~3 節がふくれて、水分の多い球茎状になる。葉は長さ 5~15 cm。幅 2~4 mm で上下面とも平滑。葉鞘はわずかに扁平で背に稜がある。花期は 4~6 月。花序は長さ 5~10 cm。枝は各節に 1~2 (3) 本出る。小穂は長い柄をもち、長さ 5~6 mm。2~3 (4) 個の小花からなる。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に、県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

温帯の落葉樹林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

生育箇所や生育面積は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採 (11) による生育環境の変化や植生遷移 (54)、道路管理による除草 (71) が減少の主要因である。

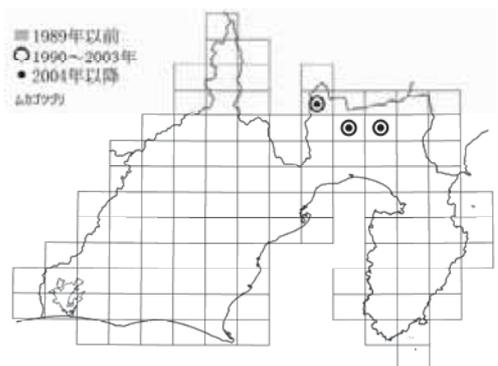
6. 保護対策

生育場所の森林の保全と林内の低木の除去。

(湯浅保雄)



富士宮市 2017年5月14日 湯浅保雄



ウキシバ *Pseudoraphis sordida* (Thwaites) S. M. Phillips et S. L. Chen

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

抽水性の多年草。高さ20~60 cm。主桿は水中を伸び、そこから抽出した枝は直立する。葉は長さ2~4 cm、幅2~5 mm。葉鞘は葉身と同長。高さ1 mm未満の膜状の葉舌がる。花期は7~9月。空中に花序を出す。花序の基部は葉鞘中にある。長さ1.5~2.5 cmの中軸から枝を出し、その中部近くに小穂を一個ずつつける。小穂は雄花と雌花各1個の2小花からなる。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、南アジアに、国内では本州、九州に分布する。県内では伊豆と中部に分布する。

3. 生育環境

湿地や沼のほとりに生育する。

4. 生育状況

前回(2004年)調査でも今回の調査でも確認できていない。

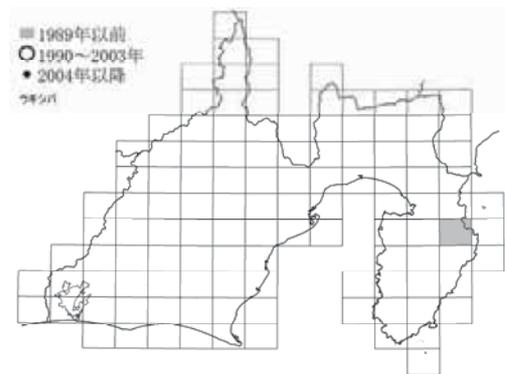
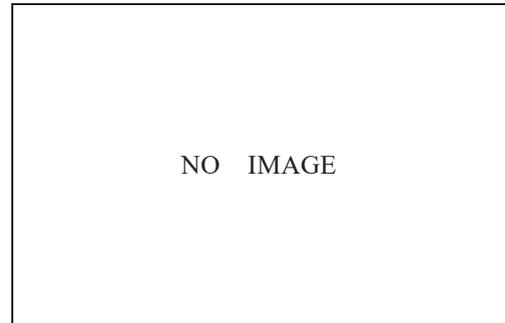
5. 減少の主要因と脅威

池沼の整備(12)や水質汚濁(31)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認された場合は、その生育環境の改善と保存を行うこと。

(湯浅保雄)



ハスノハカズラ *Stephania japonica* (Thunb.) Miers

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ツヅラフジ科 Menispermaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

ツル性の常緑木本。葉は三角状卵形で盾状につく。花期は7~9月。葉腋から柄のある複散形の花序を出し、淡緑色の小さな花を多数つける。果実は赤熟する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国(中南部)、台湾、インドシナ半島、インドネシアからインド、スリランカ、バングラデシュ、ネパール、オーストラリア、ポリネシアに、国内では本州(神奈川県以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

海岸に近い低山地の林縁に生育する。

4. 生育状況

浜名湖周辺に生育する。産地は少ないが群生する所もある。

5. 減少の主要因と脅威

開発されやすい所が生育地であり、森林開発(11)、道路工事(24)や土地造成(23)などで減少する危険性がある。

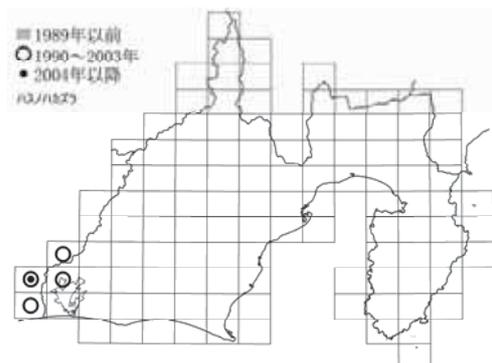
6. 保護対策

開発前の事前調査で生育地の保護を図りたい。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2013年6月30日 内藤宇佐彦



キタザワブシ *Aconitum nipponicum* Nakai subsp. *micranthum* (Nakai) Kadota

(=サクラノウズ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~30 cm。中部の茎葉は腎円形、長さ 6~15 cm、幅 5~18 cm。3 深裂し裂片は細い。花期は 8~9 月。散房~総状の花序に長さ 2.5~4.5 cm の青紫~青色の花をつける。花柄には屈毛がある。過去には、雄蕊が無毛なものがサクラノウズ、有毛なものはキタザワブシとして区別されていた。

2. 分布

日本固有亜種で、本州に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

高山~亜高山帯の草原や林縁。

4. 生育状況

産地は限られていて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

草地の遷移 (54) や登山者による踏みつけ (51) が減少の主要因である。

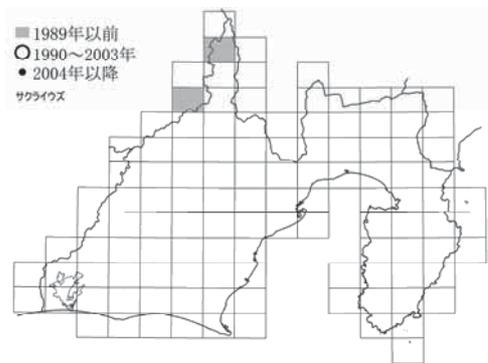
6. 保護対策

登山道以外に立ち入らないよう対策を講ずること。

(湯浅保雄)



山梨県 2017年9月4日 室伏幸一



イチリンソウ *Anemone nikoensis* Maxim.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~30 cm。根茎は紡錘形で地中を水平に伸びる。茎は単一で直立する。根出葉は 1 個、1~2 回 3 出複葉である。小葉は羽状深裂する。茎葉は 3 個、3 輪生、3 全裂して、上面に白斑と伏毛があり、横に広がる。花期は 4~5 月。花は白色で 1 個を頂生し、径 2.5~5 cm。萼片は 5~6 個あり楕円形で長さ 12~30 mm。葯は黄色。近縁種のキクザキイチゲやアズマイチゲは萼片が 8~13 個である。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では東部 (富士山周辺)、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

落葉樹林の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は東部と西部に多い。産量は一部に群生している。園芸採取の影響を受けて減少している。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取 (41) が主要因である。植生遷移 (54) も脅威である。

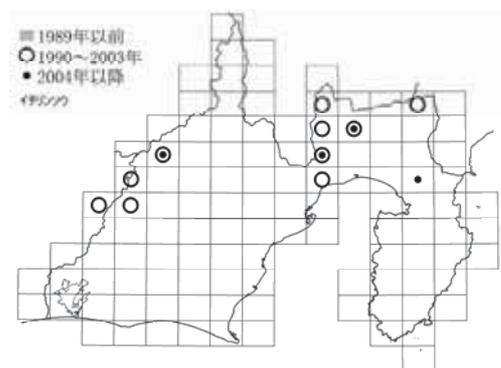
6. 保護対策

園芸対象種になる野生種を保護するために一般県民に啓発する。

(宮崎一夫)



浜松市 2007年4月1日 宮崎一夫



キクザキイチゲ *Anemone pseudoaltaica* H. Hara

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~25 cm。根茎は円柱状で径2~4 mm、地中を水平に伸びる。茎は単一で直立する。根出葉は1個で2回3出羽状複葉、裂片は3深裂する。茎葉は3個、3輪生、3全裂し、小葉は横に広がり3裂して、葉柄は長さ0.5~2 cm。花期は3~5月。花は淡青紫色又は白色で単生し径2.5~4 cm、日が当たると平開する。萼片は8~13個あり、楕円形で長さ10~25 mm。葯は白色。近縁種のアズマイチゲは小葉が垂れる。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では北海道、本州(兵庫県以北)に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯ときに暖帯上位の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は広範囲に多い。産量は多い。植生遷移による生育の圧力を受けている自生地が多い。

5. 減少の主要因と脅威

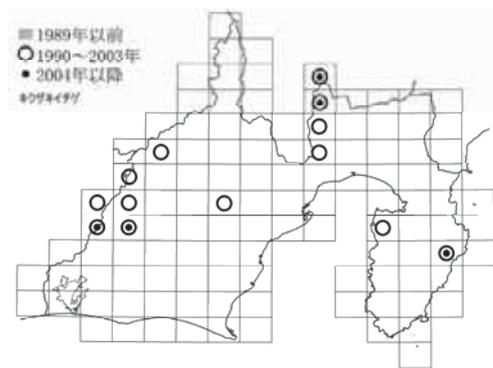
園芸採取(41)が主要因である。植生遷移(54)も脅威である。

6. 保護対策

園芸対象種になる野生種を保護するために一般県民に啓発する。(宮崎一夫)



©2020 K. Miyazaki
浜松市 2018年3月25日 宮崎一夫



アズマイチゲ *Anemone raddeana* Rege l

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。根茎は紡錘形で径3~10 mm、地中を水平に伸びる。茎は単一で直立する。根出葉は1個で2回3出羽状複葉、裂片は3浅裂する。茎葉は3個、3輪生、3全裂して垂れ、小葉は3歯があり、葉柄は長さ1~2.5 cm。花期は3~5月。花は白色で単生し径3~5 cm、日が当たると平開する。萼片は8~13個あり、楕円形で長さ10~25 mm。葯は白色。近縁種のキクザキイチゲは小葉が横に広がる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア(サハリン、ウスリーなど)に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部と東部に分布する。

3. 生育環境

温帯林の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は東部と西部に多い。産量は群生して多い。開花株数も多く生育は良好である。しかし園芸の採取圧を受けている。

5. 減少の主要因と脅威

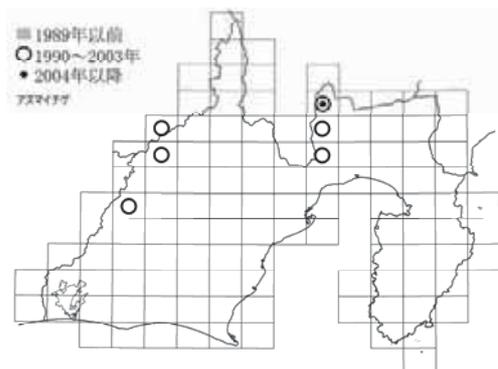
林縁草地の開発(16)や園芸採取(41)が脅威である。

6. 保護対策

保護柵を設置して鑑賞者や撮影者の踏圧や採取から保護する。(宮崎一夫)



©2020 K. Miyazaki
浜松市 2001年4月8日 宮崎一夫



レンゲショウマ *Anemonopsis macrophylla* Siebold et Zucc.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~100 cm。茎は斜上して上部で 1~3 回分枝する。根出葉は花期にも存在し、大型で 1 個、2~4 回 3 出複葉で長さ 15~30 cm。茎葉 1~2 個あり、長さ 10~20 cm。花期は 7~8 月。総状花序の柄は著しく長く、数個の花をつける。花は径 3~4 cm、下向きに開く。小苞は長さ 4~12 mm。萼片はやや肉質の広楕円形で長さ 1.5~2 cm、淡紅紫色。花弁は倒卵形で長さ 1~1.2 cm、淡紫色。袋果は 2~4 個、長さは 1.5~2 cm。近縁種はない。

2. 分布

日本固有種で、本州（岩手県～静岡県、紀伊山地）、四国に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯から温帯上位の林内に生える。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には伊豆を除く各地の記録があるが、産地及び産量ともに減少していると思慮される。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取（41）が主要因である。

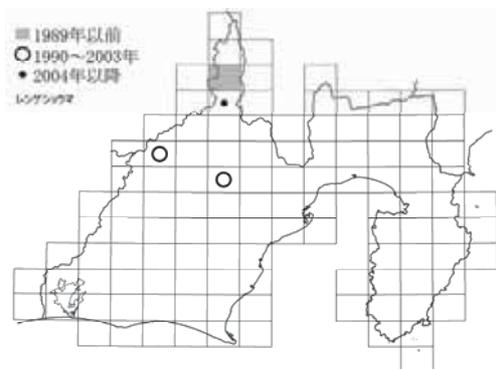
6. 保護対策

採取を防ぐために、分布の情報を公表する際には、慎重な配慮の必要がある。

（宮崎一夫）



静岡市 2005年8月7日 加藤 徹



オオカラマツ *Thalictrum minus* L. var *kemense* (Fr.) Trelease

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種)：環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~100 cm。葉は 3~4 回 3 出複生し、下面に腺毛がある。花期は 7~8 月。花序は円錐状で花をまばらにつける。果柄は 10~40 mm と長く、瘦果に腺毛がある。

2. 分布

国外ではアジアからヨーロッパの北部に広く、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

平地に広く分布するアキカラマツより高地で、温帯から亜高山帯の岩上に生育する。

4. 生育状況

浜松市天竜区水窪町などに生育する。

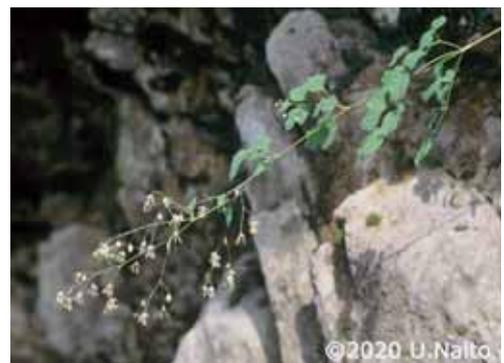
5. 減少の主要因と脅威

生育地である石灰岩の崩落（71）や林道工事（24）などで生育場所が消失する危険性がある。

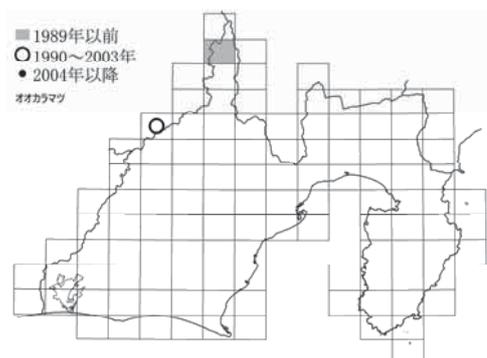
6. 保護対策

林道工事などでは事前調査で確認した生育地を保護することが必要である。

（内藤宇佐彦）



浜松市 2003年7月21日 内藤宇佐彦



ツゲ *Buxus microphylla* Siebold et Zucc.

var. *japonica* (Müell. Arg. ex Miq.) Rehder et E. H. Wilson

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

ツゲ科 Buxaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑低木。高さ1~3 m。幹は分岐が多い。枝は無毛で稜がある。葉は対生し2列生して、厚い革質の倒卵形で長さ1~1.5 cm。全縁で葉先は微凹形。雌雄同株。花は3~4月。花は腋生で叢生し淡黄色、雄花に囲まれて1個の雌花がある。蒴果は長さ1 cmで3岐した花柱が角状に残る。類似種のイヌツゲはモチノキ科で葉が互生し、微鋸歯があり葉先は微凸形である。

2. 分布

日本固有変種で、本州(山形県以西)、四国、九州、屋久島に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯山地の尾根や岩地で石灰岩や蛇紋岩を好む。

4. 生育状況

産地は少ない。産量も多くはない。生育地周辺の高木層が被陰となって生育状況が悪化している。

5. 減少の主要因と脅威

林冠の被陰(54)が主要因である

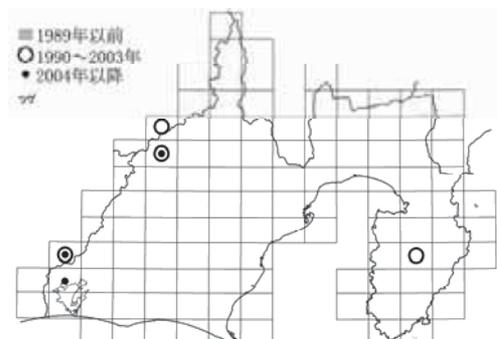
6. 保護対策

周辺の高木を伐開して光条件を改善する。

(宮崎一夫)



浜松市 2017年9月15日 湯浅保雄



チシマネコノメソウ *Chrysosplenium kamtschaticum* Fisch. ex Ser.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

ユキノシタ科 Saxifragaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。花後、根出葉の葉腋から走出枝を出し、その先にロゼットを作り越冬する。花期は4~6月。花茎は高さ3~20 mmで無葉か一對の葉を対生する。花茎の先の集散花序に両性の小花をつける。花序には葉状の苞がある。花弁はなく萼片が4個で果時まで残る。花の径は3~4 mm。萼裂片は花時に平開し黄緑色。花盤は淡黄緑色で目立つ。葯は8個で鮮黄色または汚紅色。

2. 分布

国外ではロシア(カムチャツカ、北クリール、サハリン)に、国内では南千島、北海道、本州(近畿地方以北)に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

南アルプスの亜寒帯から冷温帯の森林に覆われた沢沿いの陰湿地に生える。

4. 生育状況

産地は限られていて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

大量出水による生育地の破壊(71)や森林伐採(11)による環境の変化が減少の主要因と考えられる。

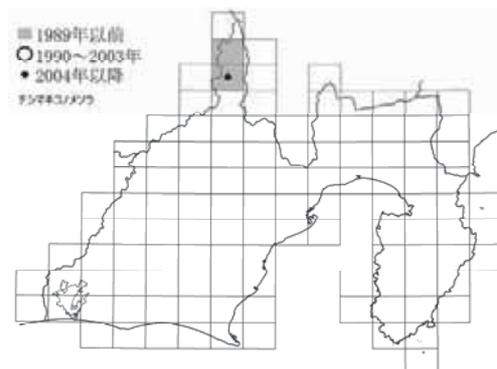
6. 保護対策

生育が確認されたら森林伐採などによる急激な環境変化を与えないこと。

(湯浅保雄)



静岡市 2019年7月2日 室伏幸一



ムカゴユキノシタ *Saxifraga cernua* L.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ユキノシタ科 Saxifragaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ5~20 cm。根出葉は長さ1~5 cmの柄があり、腋に赤色の長卵形で長さ1.5 mmの珠芽をつける。葉身は円形で長さ5~15 mm、基部は心形で5~7中裂する。茎と葉柄には腺毛がある。花期は8月。ふつう正常花は花茎の頂きに1~2個つけ、他は珠芽となる。花弁は白色で斜上して倒披針形で長さ6~8 mm。

2. 分布

国外では北半球の寒帯及び高山に、国内では本州(中部地方)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩礫の多い疎草地や岩上のやや湿った所に生育する。

4. 生育状況

産地は南アルプスで少ない。産量は数株ずつが生育している。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)による生育の圧力を見受けることもある。登山者の踏圧(51)も受けている。

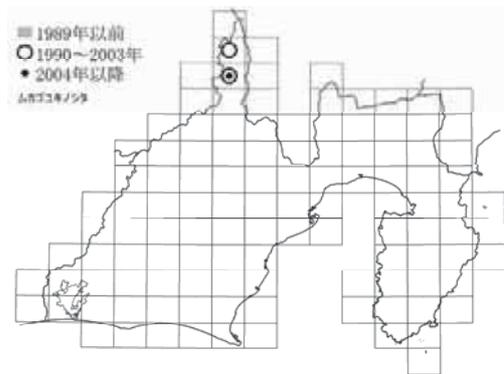
6. 保護対策

登山道を生育場所から回避して整備することである。

(宮崎一夫)



静岡市 2009年8月23日 宮崎一夫



アズマツメクサ *Tillaea aquatica* L.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ベンケイソウ科 Crassulaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

一年草。高さ2~5 cm。茎は基部で分枝し束生する。葉は線状披針形、鋭頭、長さ5 mm。幅約1 mm。花期は4~8月。花は葉腋に単生し、4数性。花弁は白色。花には小棒状の蜜腺がある。袋果は淡紅色。一見姿が似ているツメクサ(ナデシコ科)の花は5数性である。

2. 分布

国外では北半球の温帯域に、国内では北海道、本州に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

湿地や田んぼ。

4. 生育状況

静岡市や焼津市の水田に見られるが、生育地は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発(15)や農薬の使用(32)が減少の主要因である。

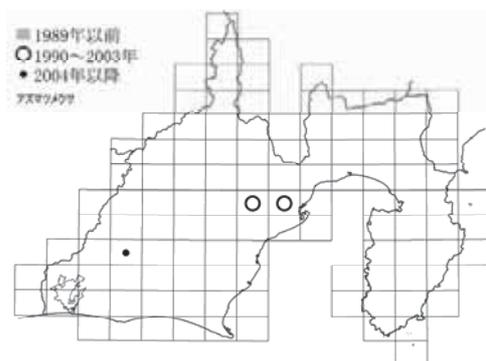
6. 保護対策

水田での農薬の使用を少なくすること。

(湯浅保雄)



磐田市 2010年5月16日 内藤宇佐彦



フサモ *Myriophyllum verticillatum* L.

(=キツネノオ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

アリノトウグサ科 Haloragaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

沈水性の多年草。茎は長く伸びて分枝する。葉は4~5輪生で羽状に細裂する。水中用の葉の長さは2~6 cm。気中葉は5~15 mm。雌雄同株。花期は6~9月。花序は4~12 cmで水面上に出る。上部に雄花、下部に雌花をつける。雄花は花弁4枚で雄蕊が8本。雌花は萼筒の先に4個の柱頭が外向きにつく。石果は卵状球形で4室。秋に茎や側枝の先に越冬芽(殖芽)を形成する。

2. 分布

国外ではヨーロッパ、アフリカ北部、アジア、北アメリカに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

池沼や小川の水中に生育する。

4. 生育状況

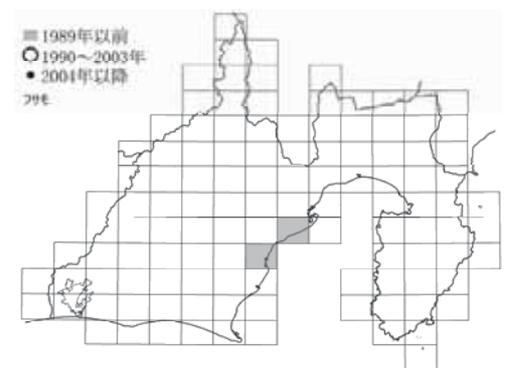
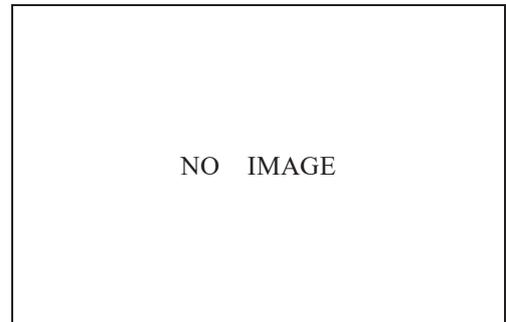
前回(2004年)の調査でも今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て(12)、水路のコンクリート化(13)、水質汚濁(31)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

水質を含めた生育環境の保全。(湯浅保雄)



カワラサイコ *Potentilla chinensis* Ser.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。茎の高さ30~70 cmで長毛が生える。葉は奇数羽状複葉。根出葉は束生し、茎葉は互生する。小葉は15~29枚、小葉の間に小さな付属小葉片をつける。表面は緑色で毛は少ないが、裏面には白綿毛が密生する。花期は6~8月。茎頂の散房状集散花序に多数の花をつける。花は径8~15 mm。花弁は黄色。類似のヒロハノカワラサイコの小葉は7~15枚で、付属小葉片はない。

2. 分布

国外では極東ロシア、中国、朝鮮半島、台湾に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯や暖温帯の日当たりのよい砂礫地に生育する。

4. 生育状況

富士山麓の砂礫質の裸地や大きな河川の河原などに生育しているが個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

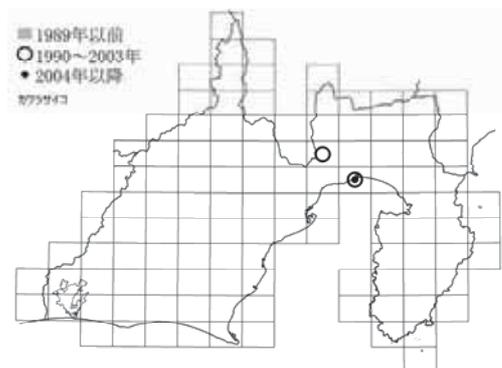
植生遷移(54)による裸地の減少が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地が確認されたら、その周囲の被覆植物を除去し、日当たりをよくすること。(湯浅保雄)



富士市 2015年7月19日 内藤宇佐彦



ミヤマモミジイチゴ *Rubus pseudoacer* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

落葉小低木。高さ20~40 cm。茎は直立または斜上して、ときにまばらに小さな刺がある。葉は互生して円心形で径5~10 cm、基部は心形で、カエデ類に似て掌状に5~7深裂し、更に欠刻と鋸歯がある。葉柄は長さ4~7 cm、時に小さな刺がある。花は7月。花は白色で径12~13 mm、萼片は先が尾状に尖る。集合果は球形で径1 cm、9月に赤熟する。近縁種のミヤマニガイイチゴは葉が長卵形で3中裂である。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州（秩父山地以西）、四国に分布する。県内では中部（南アルプス）、西部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯の林縁や岩地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には聖岳や北部の山岳に記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

周辺の樹木による被陰（54）が脅威と思われる。

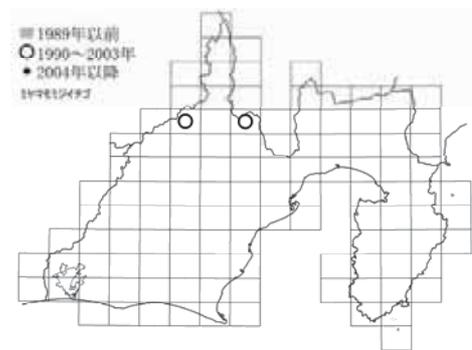
6. 保護対策

確認した時には生育地に適した対応措置を行う。

（宮崎一夫）



岐阜県 2017年6月1日 室伏幸一



ホウロクイチゴ *Rubus sieboldii* Blume

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

ツル性の常緑低木。茎は弓状に横に伸び、淡褐色の綿毛が密生し、針状の刺がまばらにある。葉は互生し卵円形で長さ8~17 cm、浅く裂け縁には鋭い鋸歯がある。葉質は厚く、葉脈は裏面に隆起する。裏面や葉柄に淡褐色の軟毛が密生し小さな刺がある。花期は4~6月。花は葉腋につき径3 cm。花弁は白色の広楕円形で縁は波打つ。集合果は球形で径2 cm。5~8月に赤熟する。近縁種のおおふゆイチゴは花期が8~10月である。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

沿海の山地の林縁に生育する。

4. 生育状況

記録されている産地は2ヶ所であるが、生育の詳細は不明である。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採（11）に伴う生育の危険性があると思われる。

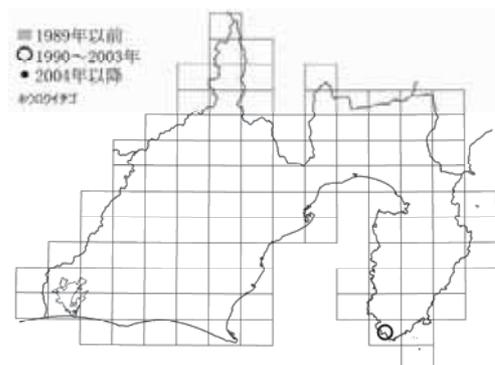
6. 保護対策

生育の記録があった地域の開発をする時は、確認調査を花期と果期に行う。

（宮崎一夫）



三重県 2013年6月3日 宮崎一夫



ナガボノアカワレモコウ *Sanguisorba tenuifolia* Fisch. ex Link

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。茎は高さ60~100 cm。葉は奇数羽状複葉。小葉は5~15枚。狭楕円形から広披針形で長さ7~8 cm、幅1~2 cm、縁に鋸歯がある。花期は8~10月。花序は頂生し、長円柱形で長さ6~10 cm、径8~10 mm。紅紫色の小花を密生する。花は花序の先端から開花する。花には花弁はなく、萼片は深く4裂する。雄蕊は4個で花後も宿存する。これまで本種とされていた県内産の一部は、本種とワレモコウの中間的形態を有するミヤマワレモコウであることが判明した。花序があまり下垂せず、また雄蕊が花後に脱落することで本種と区別される。



© PIXTA

2. 分布

国外では東ヨーロッパ、ロシア、朝鮮半島、中国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

池沼周辺の湿地に生育する。

4. 生育状況

産地は少なく、個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が減少の主要因である。

6. 保護対策

池沼周辺の草地を維持すること。(湯浅保雄)



カラハナソウ *Humulus lupulus* L.

var. *cordifolius* (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

アサ科 Cannabaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

ツル性の多年草。茎には下向きの刺毛があり、樹木などにより登って繁茂する。葉は卵円形であるが、3~5裂することもある。雌雄異株。花期は8~9月。雌花序は長さ2~3 cmの卵円形で、雄花序は大きな円錐花序となる。瘦果の表面には苦みを含む黄色の小腺点が多くある。

2. 分布

国外では中国北部に、国内では南千島、北海道、本州(中部以北)に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯域の雑木林の林縁や河原などの明るい場所。

4. 生育状況

富士山西麓の朝霧高原ではまだ見られるが、他の地域ではヒノキなどの植林が進みほとんど見られなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

草地(16)や雑木林の減少(71)が減少の主要因である。

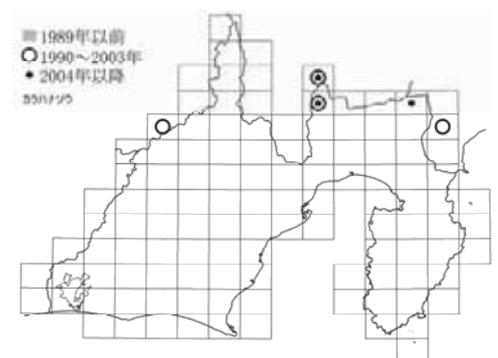
6. 保護対策

明るい林縁を伴った落葉性の雑木林を保存すること。

(湯浅保雄)



富士宮市 2013年9月14日 宮崎一夫



ミヤマニガウリ *Schizopepon bryoniifolius* Maxim.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

ウリ科 Cucurbitaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

ツル性の一年草。巻きひげは葉と対生し、2岐して長い。葉は薄く心形で5~7角形。雄株と両性花株がある。花期は8~9月。雄花は総状につき、花冠は白色で5裂して径5mm。両生花は葉腋から出る長柄に単生して、黄色みを帯びた白色。液果は楕円形で長さ約1cm。種子は1~3個。

2. 分布

国外ではロシア(ウスリー、サハリン)、中国東北部、朝鮮半島に分布する。国内では南千島、北海道、本州、九州に、県内では中部に分布する。

3. 生育環境

亜寒帯から冷温帯の谷筋の林縁や林道脇。

4. 生育状況

産地は限られていて、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)による環境変化が減少の主要因と考えられる。また、シカによる食害(52-1)も脅威である。

6. 保護対策

林道の補修工事などで、生育地を破壊しないように十分注意すること。

(湯浅保雄)



©2020 Y.Yuasa
静岡市 2016年8月26日 湯浅保雄



イワウメヅル *Celastrus flagellaris* Rupr.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

ニシキギ科 Celastraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

ツル性の落葉低木。枝の側芽の上から気根を出して木や岩に這い上がる。今年枝は黄緑色、前年枝は暗紫色。今年枝と前年枝には乳頭状突起を密生する。葉は円形ないし菱形状卵形。長さ2~5cm、幅1.5~4cm。雌雄異株。花期は5~6月。葉腋に雄花は1~3個、雌花は1個つける。花は黄緑色、径5~6mm。果実は10~11月ごろ黄熟し、褐色の種子が3~6個ある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部、アムールに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯山地の岩や樹幹に這い上がる。

4. 生育状況

産地は限られている。富士山周辺に生育するが個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

伐採による天然林の減少(11)が減少の主要因と考えられる。今後はシカによる食害(52-1)も脅威である。

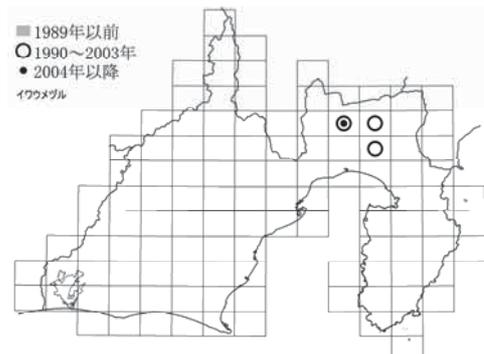
6. 保護対策

天然林の伐採を抑え、併せてシカの頭数を制限すること。

(湯浅保雄)



©2020 K.Murafushi
富士宮市 2019年6月26日 室伏幸一



ヒゴスミレ *Viola chaerophylloides* (Regel) W. Becker
var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

スミレ科 Violaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型の多年草。高さ5~10 cm。エイザンスミレに似て、葉はさらに細裂する。葉身は3全裂し、裂片がさらに3回深裂する。花期は4~5月。花は径1.5~2 cm、白色で唇弁に紫条がある。

2. 分布

日本固有変種で、国内では本州（秋田県以南）、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地の明るい林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

富士宮市、静岡市清水区、浜松市などに生育する。生育地は少ない。群生することもある。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)、林道工事(24)や草地開発(16)などで生育地が消失する危険性がある。また植生遷移進行(54)による被陰で生育環境が悪化し個体数の減少が懸念される。さらに園芸採取(41)の危険性も指摘される。

6. 保護対策

生育地の保護や間伐などによる生育環境維持が必要である。また、園芸採取を回避するため産地情報の管理も必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2010年4月7日 宮崎一夫



イヨフウロ *Geranium shikokianum* Matsum. var. *shikokianum*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

フウロソウ科 Geraniaceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~80 cm。茎は開出かやや下向きの長毛がある。茎葉は腎円形で長さ4~10 cm、掌状に5中~深裂し、両面に長毛がある。托葉は合生して広卵形で長さ8~10 mm、膜質で褐色。花期は7~9月。花は茎頂や枝先に2個ずつつき、紅紫色で径25~30 mm。花柱は5深裂する。花柄は果時に水平以下となり、分果は長さ3 cm。近縁種のアサマフウロは茎の毛が下向きの伏毛で、花柄は花期に直立する。

2. 分布

日本固有変種で、本州（東海地方以西）、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯上位から亜高山帯の日が当たる草地や裸出した岩地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には愛鷹山、富士山、荒川岳、黒法師岳など各地の記録があるが、遷移の影響を受けていると思われる。

5. 減少の主要因と脅威

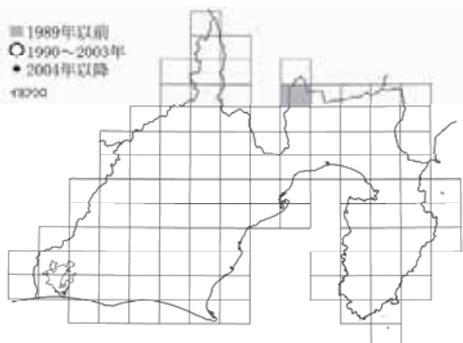
遷移の進行(54)が脅威となっていると思慮される。

6. 保護対策

生育が確認されたときは生育状況を把握して対策を練るべきである。(宮崎一夫)



富士宮市 1985年8月24日 加藤 徹



コイヌガラシ *Rorippa cantoniensis* (Lour.) Ohwi

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

アブラナ科 Brassicaceae/Cruciferae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

一年草。茎中・下部の葉は羽状深裂し、裂片は長楕円形で鋸歯があり、茎上部の葉は無柄。花期は4~5月。各花に苞葉がある。花は1個で腋生する。花は黄色、花弁の長さ2~2.5 mm。果実は円柱状長楕円形、長さ7~10 mm、果柄はごく短い。東アジアに広布する。近似種のイヌガラシは総状花序をなす。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、東南アジアに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

水田などの水湿地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には藤枝の記録があり、産地はその周辺で確認された。焼津市や掛川市などに生育し、群生する所もある。

5. 減少の主要因と脅威

水田の乾田化(15)と農薬汚染(32)が主要因である。

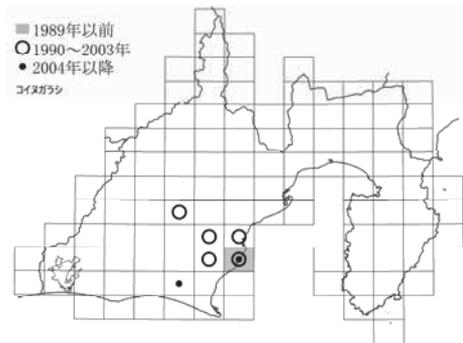
6. 保護対策

乾田化は農業生産の効率化であり致し方ないが減農薬に努める。

(宮崎一夫)



焼津市 2017年4月9日 内藤宇佐彦



ナガバノウナギツカミ *Persicaria hastatosagittata* (Makino) Nakai

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

タデ科 Polygonaceae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

一年草。高さ30~80 cm。茎の下部は地を這い、上部は直立して逆刺がある。葉は短柄があり互生して、披針形で長さ5~12 cm、先は鋭尖形、基部は鈍形または矢尻形である。托葉鞘は切形で長さ1.5~3.2 cm、縁毛がある。花期は7~10月。淡紅紫色の小花を総状花序に密集して頭状となる。花柄は黒い腺毛を密生する。近似種のアキノウナギツカミは花柄が無毛である。

2. 分布

国外では台湾、朝鮮半島、中国、ウスリーに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯低地の水湿地に生える。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には東部と西部の記録があるが、自生環境が失われていると思慮される。

5. 減少の主要因と脅威

湿地開発(15)が主たる要因である。

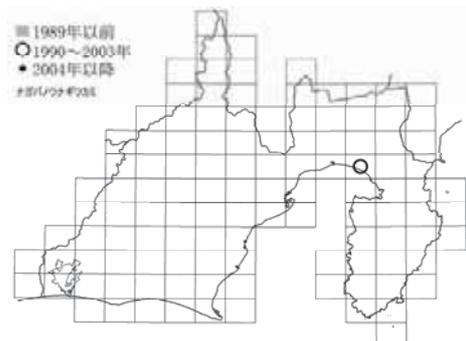
6. 保護対策

湿地が失われている現状に鑑み、湿地の開発を避けて保全する。

(宮崎一夫)



千葉県 2019年10月20日 室伏幸一



ヒゲネワチガイソウ *Pseudostellaria palibiniana* (Takeda) Ohwi

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ナデシコ科 Caryophyllaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。ややふくらんだ根が1~4本ある。茎は枝分かれせず直立する。葉は対生し、しばしば2形をしめす。上部の葉は広披針形から広卵形で4枚の葉が接近して輪生状となる。下部の葉は倒披針形で2~4対はなれてつく。花期は4~5月。茎の先端から無毛の花柄を出し、白色の1花を上向きに開く。類縁種のワダソウとは花柄の毛の有無で区別できる。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州(福島県以南から中部)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の落葉樹林内。

4. 生育状況

前回(2004年)の調査では旧水窪町と旧佐久間町の記録があるが、今回の調査でその地域では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

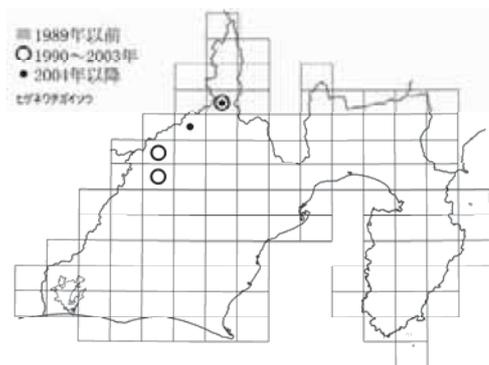
落葉広葉樹林のスギ・ヒノキの人工林化(71)。最近ではシカによる食害(52-1)が主な減少の要因である。

6. 保護対策

生育地にシカ防除の柵を作ること。(湯浅保雄)



川根本町 2004年5月8日 宮崎一夫



ホソバハマアカザ *Atriplex patens* (Litv.) Iljin

(=ホソバノハマアカザ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ヒユ科 Amaranthaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草。高さ40~60 cm。ハマアカザに似る。葉は長さ2~10 cm、細く縁は全縁か多少歯芽がある。花期は8~10月。雌花の小苞は菱状三角形で基部は鈍形かほぼ切形である。果期はハマアカザより遅い。

2. 分布

国外ではアジア北東部に、国内では南千島、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

海岸の砂浜、主に塩湿地に生育する。

4. 生育状況

沼津市や浜松市西区などに生育する。

5. 減少の主要因と脅威

海岸開発(14)や海岸植生の変異(54)などで生育地が減少してきている。

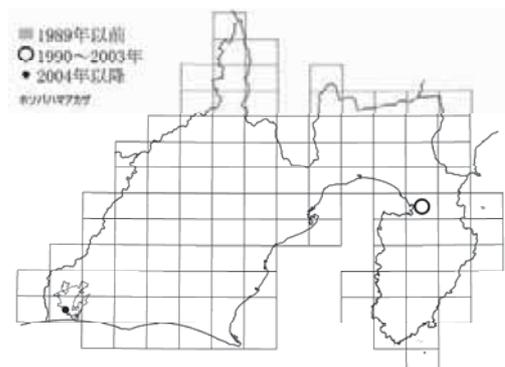
6. 保護対策

生育地の保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市西区 2010年10月31日 内藤宇佐彦



ミドリアカザ *Chenopodium bryoniifolium* Bunge ex Trautv.

(=ヤマアカザ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード 9

ヒユ科 Amaranthaceae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A 類 (CR)]

1. 種の解説

一年草。高さ 40~60 cm。茎は細く直立して分枝する。葉は緑色で長柄あり菱状卵形で長さ 3~5 cm、先は尖り基部は切形または広楔形で、1~2 対の裂片があり全縁である。花期は 8~10 月。花序は長さ 1~10 cm、まばらに花をつける。萼は 5 深裂して裂片は長さ 1 mm。近似種のシロザは葉の基部に裂片がなく、若い葉に白色の粉状毛がある。

2. 分布

国外ではロシア (シベリア、アムール、ウスリー)、朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯上位の山すその日が当たる礫地に生育する。

4. 生育状況

生育記録がある産地は少なく、産量も少ないと思われる。

5. 減少の主要因と脅威

林道の整備や拡幅工事 (24) が脅威である。

6. 保護対策

林縁を工事する時には注意が必要である。

(宮崎一夫)

NO IMAGE

詳細な生育地不明

モロコシソウ *Lysimachia sikokiana* Miq.

(=ヤマクネンボ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

サクラソウ科 Primulaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~80 cm。茎は直立または斜上する。葉、花序とともに微細な腺毛を散生する。葉は互生し、長さ 5~10 cm、幅 2~4.5 cm。無毛。花期は 7~8 月。上部の葉腋に 1 花ずつつける。花柄は細く、長さ 2~6 cm で径 1~1.2 cm の黄色の花をつける。蒴果は球形で径 6 mm、灰白色に熟す。植物全体、乾くと一種の香りがする。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州 (関東地方南部以西)、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖地の海岸近くの林内と湿った道端など。

4. 生育状況

伊豆地域に広く分布し、個体数は少ないが、前回 (2004 年) の調査時から大きな変化はないようである。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採 (11) と土地造成 (23) が減少の主要因である。

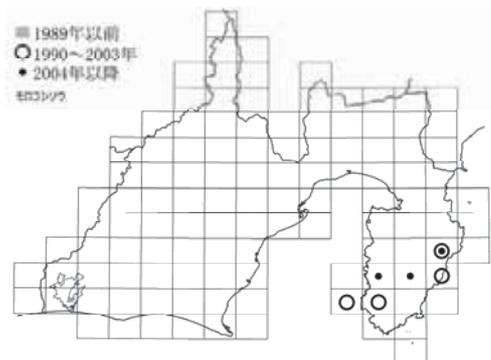
6. 保護対策

林道整備時には、事前に調査を行い、生育が確認されたら適切に対処すること。

(湯浅保雄)



西伊豆町 2018年6月26日 宮崎一夫



イナモリソウ *Pseudopyxis depressa* Miq.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

アカネ科 Rubiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ5~15 cm。葉は茎頂に2対、狭い幅で輪生状につく。花期は5~6月。花は淡紅紫色。花冠は筒状の漏斗形で先が5裂する。

2. 分布

日本固有種で、本州（関東地方南部以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の丘陵地の林内や林縁、やや湿った場所に生育する。

4. 生育状況

東伊豆町と引佐町などに生育する。群生地もあるが産地は限られている。

5. 減少の主要因と脅威

林道整備(24)などの影響を受けている。ほかの植物の繁茂による被陰(54)で減少することもある。登山道沿いでは、踏みつけ(51)によって減少している。

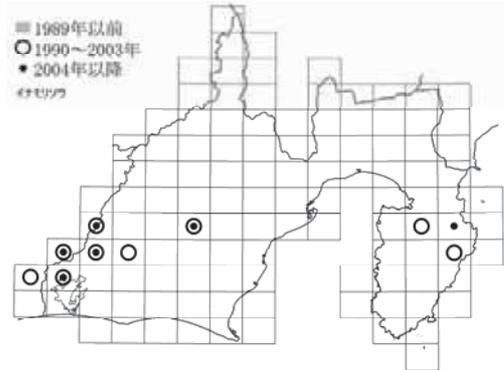
6. 保護対策

林道工事などの際には生育地を避けるなど工夫が必要である。また、草刈り、間伐などによる生育地の維持管理も必要である。

(内藤宇佐彦・西口紀雄)



浜松市 2014年6月8日 内藤宇佐彦



フナバラソウ *Vincetoxicum atratum* (Bunge) C. Morren et Decne.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

キョウチクトウ科 Apocynaceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ40~80 cm。全体に白色の毛がある。茎は直立して分枝しない。葉は対生して広楕円形で長さ6~10 cm。花期は5月。花は上部の葉腋に集ってつく。花冠は暗紫褐色で、5裂して径1.2~1.4 cm。袋果は有毛で長さ7 cm。近縁種のタチガシワは温帯落葉樹林下に生育して、花が茎頂に集まってつく。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部、伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地から山地の草地に生育する。林縁や山間部の田畑など耕作地の周辺にも生育する。

4. 生育状況

産地は各地に点在する。産量は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

草地の開発(16)が主要因である。植生遷移(54)の圧力を受けている。園芸採取(41)や太陽光発電の適地として草原が開発(16)されることも脅威である。

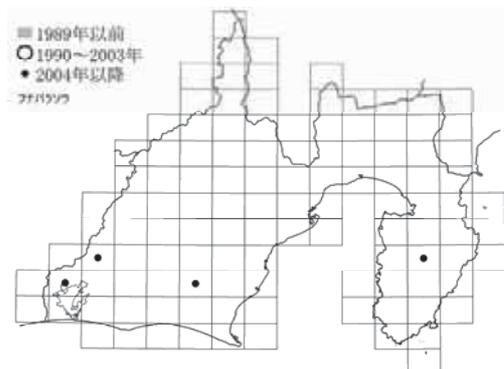
6. 保護対策

草地や草原の開発を回避して保全することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2014年5月16日 宮崎一夫



マメダオシ *Cuscuta australis* R. Br.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

ヒルガオ科 Convolvulaceae

[2004年版カテゴリー なし: 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A 類 (CR)]

1. 種の解説

ツル性の一年草。マメ科の植物に寄生する。茎は糸状で左巻き。葉は退化してまばらに鱗状で卵形。花期は7~10月。萼筒背面に隆起する稜はない。花は束生、花冠は白色で5裂して長さ2mm、裂片は果時に反曲しない。花柱は2個。蒴果は扁球形で3mm。近縁種のハマネナシカズラは萼筒背面に隆起する10稜がある。アメリカネナシカズラの花冠裂片は果時に反曲する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、東南アジア、オーストラリアに、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい草地や海岸に生育し時に大豆畑に発生する。

4. 生育状況

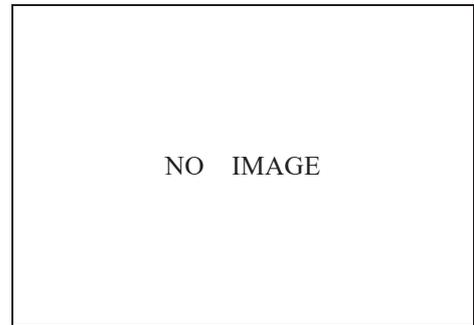
静岡県植物誌(1984)には、各地に点在した記録があるが、近年の生育状況は不明である。消長の変化が著しい種である。

5. 減少の主要因と脅威

帰化競合(56)や土地開発(23)が主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認された場合は、環境に応じて善処することが重要である。農作物に被害が及ぶのは避けたいが、産地を限定して保護保全することも必要である。(宮崎一夫)



ハマクワガタ *Veronica javanica* Blume

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

オオバコ科 Plantaginaceae

[2004年版カテゴリー なし: 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II 類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ10~30cm。茎は分枝し曲毛がある。葉は対生し下部の葉は有柄で三角状卵形、基部は切形、縁は鈍粗鋸歯がある。花期は4~6月。上部の葉腋から短い総状花序を伸ばし10個ほどの花をつける。花冠は淡紅紫色で径2~2.5cm。萼は4深裂し広線形。蒴果は倒心臓形である。近縁種のヒョクソウは花の径が6~8mmである。

2. 分布

国外では台湾、中国、東南アジアからインド、アフリカに、国内では本州(静岡県以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では中部と西部に分布する。本県は東限自生地である。

3. 生育環境

沿岸地の荒れた草地や砂礫地に生育する。

4. 生育状況

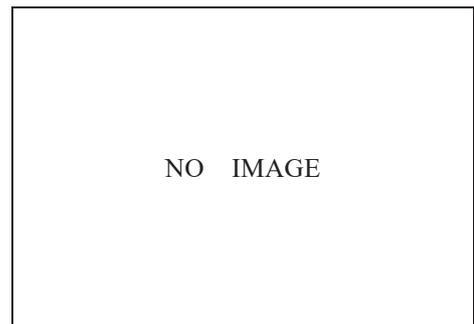
静岡県植物誌(1984)には沿海の各地に生育の記録があるが、近年の生育状況は不明である。

5. 減少の主要因と脅威

沿海の堤防や土地造成などの開行為(14)が主要因と思われる。

6. 保護対策

生育が再確認された場合は、生育地に応じた保護保全の施策が重要である。(宮崎一夫)



アシタカジャコウソウ *Chelonopsis yagiharana* Hisauti et Matsuno

(=タカネジャコウソウ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード3]

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ20~40 cm。根は木質化し茎を叢生する。茎に稜はなく、分枝せず、円柱形で葉柄とともに下向きの開出毛を散生する。葉は長さ4~7 cmで、一部2対の葉が集まり偽輪生状を呈する。花期はジャコウソウより少し早く6~8月。萼筒にも開出毛がある。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県、神奈川県西部、山梨県南部）に分布する。県内では、伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯、温帯の谷筋に生育する。

4. 生育状況

前回（2004年）の調査時以降、シカの食害によって、崖地に生育しているもの以外はほとんど消滅してしまった。

5. 減少の主要因と脅威

シカによる食害（52-1）と園芸用採取（41）が減少の主要因である。

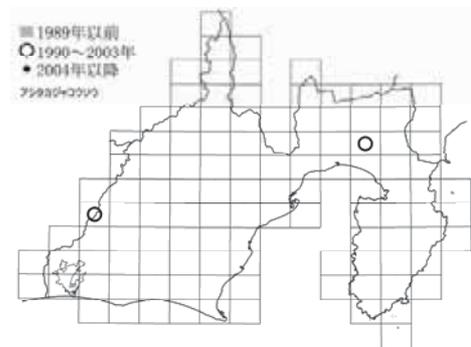
6. 保護対策

シカの食害対策を行うこと。

(湯浅保雄)



沼津市 2001年8月26日 石川均



ホナガタツナミソウ *Scutellaria laeteviolacea* Koidz.

var. *maekawae* (H. Hara) H. Hara

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種)：環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さは7~20 cm。茎は四角形、下向きの曲がった白毛が密に生える。葉は茎の下部に集まる傾向がある。葉柄は長さ1~3 cm。葉身は長卵~広卵形で、長さ1.5~7 cm、幅1.4~4 cm、縁には鈍鋸歯がある。両面とも毛がまばらに生える。花期は6月。茎の頂に2~8 cmの花穂をつけ、少数の唇形花をつける。花冠は紫色で長さ2 cm。

2. 分布

日本固有変種で、本州（福島県以南）に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯のやや湿った山林内。

4. 生育状況

群生地はあるが産地は限られている。

5. 減少の主要因と脅威

森林内の下草の繁茂による被圧（54）と園芸採取（41）が減少の主要因である。

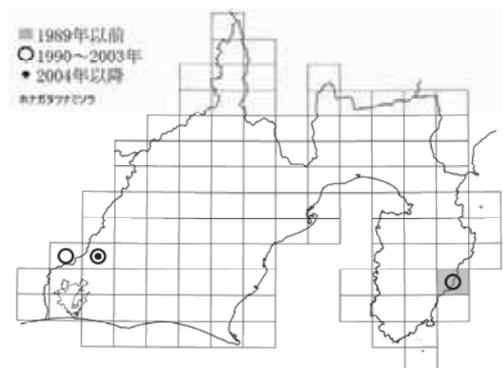
6. 保護対策

生育している森林の林床植生の繁茂を抑制すること。

(湯浅保雄)



浜松市 2008年6月6日 宮崎一夫



タカネママコナ *Melampyrum laxum* Miq. var. *arcuatum* (Nakai) Soó

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9]

ハマウツボ科 Orobanchaceae

[2004年版カテゴリー なし: 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。半寄生植物。高さ10~20 cm。茎は直立し少数の枝を出す。葉は短い柄があり、長さ1~3 cm、細毛がある。日当たりのよい所に生えるものは葉が紅色を帯びる。花期は8~9月。花冠は淡黄白色で長さ8~12 mm。苞は狭披針形で細い。近縁種のミヤマママコナは花冠が紅紫色で、苞が卵~披針形である。

2. 分布

日本固有変種で、本州中部（甲斐駒ヶ岳、鳳凰山、八ヶ岳、秩父、南アルプス）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

山地の針葉樹林中の日当たりのよい乾燥地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には、池口岳の記録があるが、近年の正確な生育状況は不明である。

5. 減少の主要因と脅威

樹冠の被陰や植生遷移（54）が主要因である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。

（宮崎一夫）



山梨県 2019年8月25日 室伏幸一



ヒキヨモギ *Siphonostegia chinensis* Benth. ex Hook. et Arn.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

ハマウツボ科 Orobanchaceae

[2004年版カテゴリー なし: 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草。半寄生植物。全草に曲がった短毛が密生する。葉は卵形で長さ1~5 cm、ヨモギ状に深裂して裂片は細い。花期は8~9月。花は唇形で葉腋ごとに鮮黄色の1花をつける。萼は細い筒形で、長さ11~17 mm。萼片は長さ4~5 mm。蒴果は狭長楕円形で長さ14~17 mm。近縁種のオオヒキヨモギの花は灰黄色で、全草に腺毛が密生する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、台湾に、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山野の日当たりのよい草地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には、南アルプスを除く広範囲に記録があるが、減少していると思慮される。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移（54）が主要因である。草地開発（16）が脅威である。

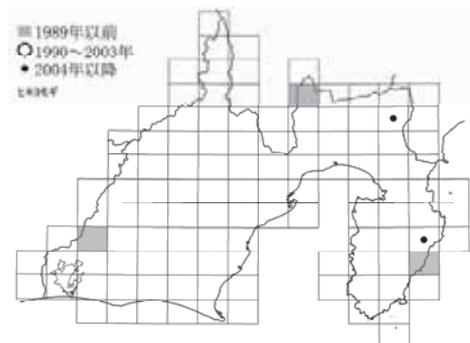
6. 保護対策

植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。

（宮崎一夫）



富士宮市 1999年9月26日 杉野孝雄



キヨスミウツボ *Phacellanthus tubiflorus* Siebold et Zucc.

(=キョズミウツボ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ハマウツボ科 Orobanchaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。全寄生植物。高さ5~10 cm。根茎は糸状に伸び、疎にやや太い茎を地上に出す。全体が白色でのち黄色に変わる。鱗片葉は直立してつき卵形で4~8 mm。花期は5~7月。花は頭状に数個が集まり、筒状唇形で長さ2.5~3 cm。近縁種のハマウツボは花が穂状につく。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア(ウスリー、サハリン)に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯に生育する、ムラサキシキブ・タマアジサイ・コアジサイなどの根に寄生する。植林された林床にも生育する。

4. 生育状況

産地は点在する。産量は局所的には多い。年による株数の消長があり、群生することもあるが概して減少している。

5. 減少の主要因と脅威

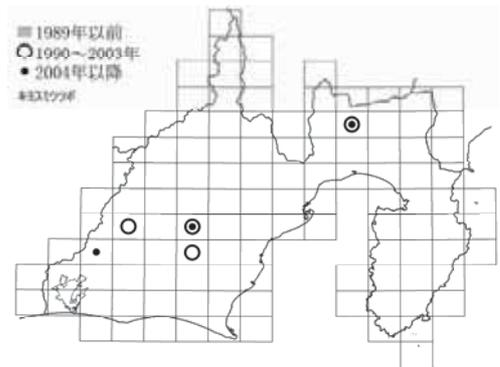
自然林の伐採(11)が主要因である。宿主の衰退(71)が脅威である。動物の食害(52-2)を見受ける。

6. 保護対策

植林下でも宿主である低木を伐採しないことが重要である。
(宮崎一夫)



島田市 2000年6月11日 宮崎一夫



イワシャジン *Adenophora takedae* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

キキョウ科 Campanulaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。茎の長さ20~55 cm。根茎はやや太く岩の割れ目に入る。茎は細くやや垂れる。根出葉は長柄があり卵形。茎葉は線状披針形で互生し短柄があり、縁は低鋸歯で先は尾状尖鋭形。花期は9~10月。茎頂に総状花序を作る。萼裂片は線形で少し歯牙がある。花は濃紫色で長さ15~25 mm、下向きに開く。花冠は鐘形で長さ径2 cm、先は5浅裂する。近縁種のソバナは萼裂片が披針形で全縁である。

2. 分布

日本固有種で、本州(神奈川県、静岡県、山梨県、長野県、愛知県)に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯に属する山地の溪流や、谷筋の岩場に垂れ下がって生育する。

4. 生育状況

産地は多い。産量は多い。生育状況はよいが一部では園芸採取により開花株数は減少している。

5. 減少の主要因と脅威

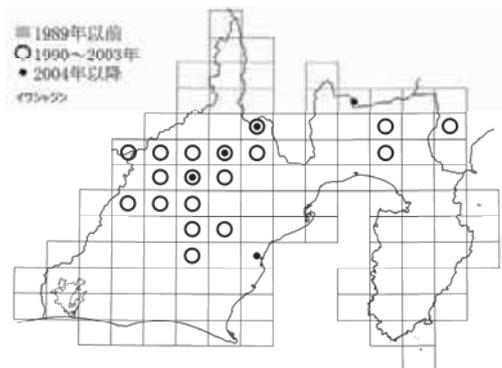
園芸採取(41)が主要因である。

6. 保護対策

日本の一部地域だけに生育する貴重種であるから、園芸採取を防ぐために、生育地の立ち入りを禁止する。(宮崎一夫)



静岡市 2018年10月22日 宮崎一夫



シデシャジン *Asyneuma japonicum* (Miq.) Briq.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

キキョウ科 Campanulaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~100 cm。茎は直立して縦の隆起線がある。葉は互生し長楕円形で長さ 5~12 cm、縁は不整鋸歯がある。花期は 7~8 月。茎頂と葉腋に総状花序を作る。花冠は青紫色で 5 全裂して、裂片は線形で長さ 10~15 mm、平開して先は反り返る。雄蕊は 5 個。柱頭は 3 裂する。蒴果は扁球形で径 5 mm。近似種のツリガネニンジンとは花冠が鐘形である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア (アムール、ウスリー) に、国内では本州、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地のやや湿った林縁や草地に生育する。

4. 生育状況

産地は多い。産量は多くない。植生遷移や園芸採取の影響を受けて、開花株数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

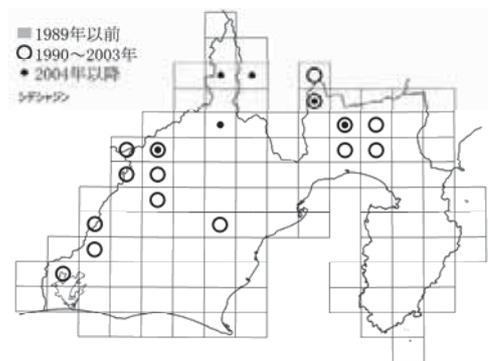
植生遷移 (54) が主要因である。園芸採取 (41) も脅威である。

6. 保護対策

植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理するとともに、園芸採取からの保護が重要である。 (宮崎一夫)



浜松市 2014年8月3日 内藤宇佐彦



ミヤマコウモリソウ *Parasenecio farfarifolius* (Siebold et Zucc.) H. Koyama var. *acerinus* (Makino) H. Koyama

(=モミジタマブキ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更コード9

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B 類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 50~140 cm。葉鞘は茎を少し抱くが円筒状に閉じるほどではない。葉身は 3 角状心形で縁が掌状に中裂して裂片の先が尖り、長さ 13~21 cm。葉腋に珠芽がつく。総苞は長さ 9~10 mm。総苞片は 5 列。小花は白色で 5~6 個。花冠は 5 裂して反り返り、黄色からしだいに褐色を帯びる。瘦果は長さ 6 mm。冠毛は長さ 8 mm。近縁種のイズカニコウモリは葉鞘が円筒状に茎を抱き、葉身は腎形である。

2. 分布

日本固有変種で、本州 (静岡県、紀伊半島)、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の林床に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、広範囲の山地帯に記録がある。近年は確認の情報が無い。

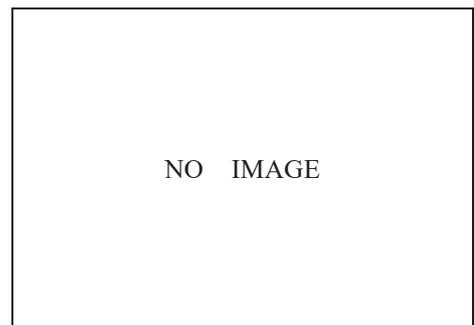
5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) が主要因である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。

(宮崎一夫)



ノッポロガンクビソウ *Carpesium divaricatum* Siebold et Zucc.
var. *matsuei* (Tatew. et Kitam.) Kitam.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし キク科 Asteraceae
[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~100 cm。上部で多く枝を分ける。根出葉は花時にはなく、下部及び中部の茎葉は大きく、卵形または広卵形で長さ 7.5~14 cm、幅 5~11 cm、基部は浅心形または円形。花期は 8~10 月。頭花は枝の頂きにつき、有柄で花時には點頭する。総苞は半球形で長さ約 5 mm、幅 11 mm。総苞片は全て同長。瘦果は長さ 3.5 mm、やや粘着する。近縁種のガンクビソウやホソバガンクビソウの総苞片は外側のものが小さい。

2. 分布

日本固有変種で、北海道、本州（滋賀県以北）に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯の林内や林縁の少し湿った場所。

4. 生育状況

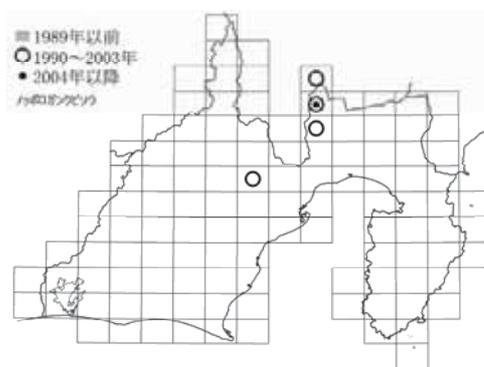
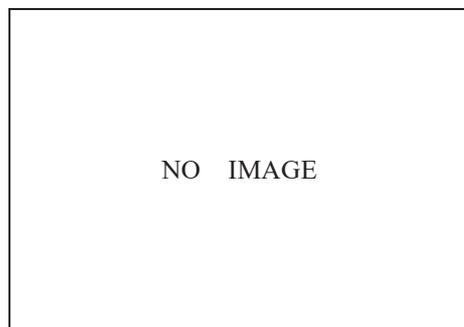
富士山麓、天子山地、安倍川流域に生育するが、産地は少なく、また近年はシカによる食害で著しく減少している。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)による環境の変化とシカによる食害(52-1)が減少の主要因である。

6. 保護対策

森林伐採等の急激な環境変化を避ける。(湯浅保雄)



ミズギク *Inula ciliaris* (Miq.) Maxim.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード 9 キク科 Asteraceae
[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~50 cm。根出葉はさじ形で長さ 4~10 cm、花時にも存在する。葉裏の主脈上に長さ 2 mm の長毛がある。茎葉は数個ありやや抱茎する。花期は 7~10 月。頭花は舌状花のみからなり黄色で径 3~4 cm、1~数個を枝先につけ上向きに開く。総苞は半球形。総苞片はすべて同長である。近縁種のオグルマは根出葉が花時に枯れ、葉裏の主脈上に長さ 1 mm の短毛がある。

2. 分布

日本固有種で、北海道（静狩）、本州（三重県以東）、九州（宮崎県）に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

山中の湿地、沼辺に生育する。

4. 生育状況

産地は少ない。産量は小群生するが少なく、植生遷移の圧力を受けて、生育が衰退している。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の消失(15)や植生遷移(54)が主要因である。湿地の乾燥化(54)、園芸採取(41)や踏圧(51)も脅威である。

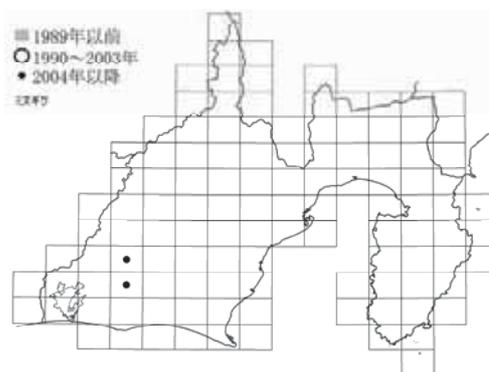
6. 保護対策

園芸採取や踏圧を防ぐために生育地の立ち入りを禁止することや木道を敷設する。

(宮崎一夫)



浜松市 2016年9月10日 宮崎一夫



ノニガナ *Ixeris polycephala* Cass.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草または越年草。高さ15~50 cm。茎の中部の葉は矢じり状に茎を抱き、長さ7~15 cm、幅0.5~1.5 cm。無毛で緑白色。花期は4~5月。頭花は径8 mmで散房状に5~10個つく。小花は10~25個、花冠は黄色。瘦果は長さ約3 mm、翼状の10肋がある。冠毛は白色。類似のニガナの茎葉も茎を抱くが、矢じり状にならないので区別できる。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、台湾、インド、コーカサスに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

水田の畦や河原の土手。

4. 生育状況

静岡市、掛川市、旧福田町、浜松市などに見られる。産地は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

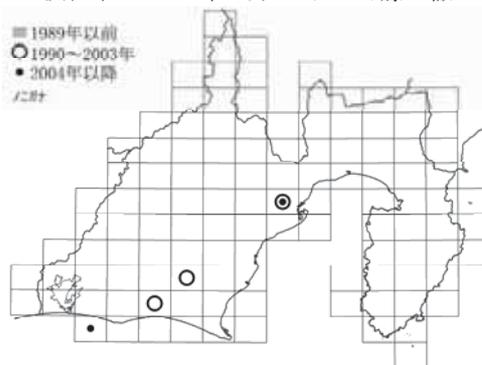
河原の土手での草刈り回数の不足(71)や畦道での除草剤(32)の使用が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地においては適度に草刈りによって除草を行い、除草剤は使用しないこと。(湯浅保雄)



浜松市 2015年8月12日 加藤 徹



オナモミ *Xanthium strumarium* L. subsp. *sibiricum* (Patrin ex Widder) Greuter

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ20~100 cm。葉は互生して長柄があり、卵状三角形で長さ6~15 cm、3~5浅裂して不整鋸歯があり、両面ともに剛毛がある。花期は8~10月。雌雄異花同株。茎の先に柄のある雄花がつき、葉腋に雌花がつく。筒状花は白色。偽果は卵状楕円形で長さ9~14 mm、表面に小鱗片毛があり光沢はなく、灰褐色に成熟する。刺は先端が鈎状に曲がり長さ1~2 mm、小鱗片毛はない。近縁種のオオオナモミは偽果の長さ15~25 mmあり、表面には小鱗片毛がほとんどなく光沢がある。

2. 分布

日本固有亜種で、南千島、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部から東部、伊豆に分布する。近年は東部で確認がある。

3. 生育環境

低地の荒地から海岸や河原に生育する。

4. 生育状況

産地は少ない。産量はきわめて少ない。静岡県植物誌(1984)には南アルプスを除く低地に広範囲の記録がある。しかしオオオナモミにニッチを奪われたと思慮される。

5. 減少の主要因と脅威

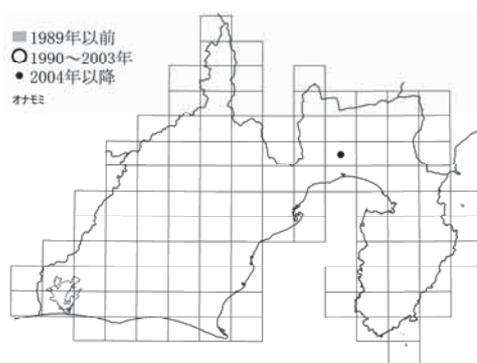
帰化種との競合(56)と異種交雑による不稔が主要因である。

6. 保護対策

帰化種の駆除対策を行う。生育地では環境に応じて善処することが重要である。(宮崎一夫)



富士市 2016年5月25日 杉野孝雄



レンプクソウ *Adoxa moschatellina* L.

(=ゴリンバナ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

レンプクソウ科 Adoxaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ8~15 cm。地下茎は白色で細長く、先端に球茎を作り増える。根出葉は2回3出複葉。茎葉は対生する。花期は4~5月。花は淡黄緑色で、茎頂に通常5個の小花を頭状につけて、先端の1花の花冠は4裂し、側方の4花は5裂する。日本産の花は香りが無い。近縁種のシマレンプクソウは国後島に産する。

2. 分布

国外では北半球の温帯に、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯上位から温帯の山地で、湿り気のある落葉樹林下や林縁の疎草地に生育する。

4. 生育状況

産地は点在する。産量が多い。栄養繁殖により小群生している。

5. 減少の主要因と脅威

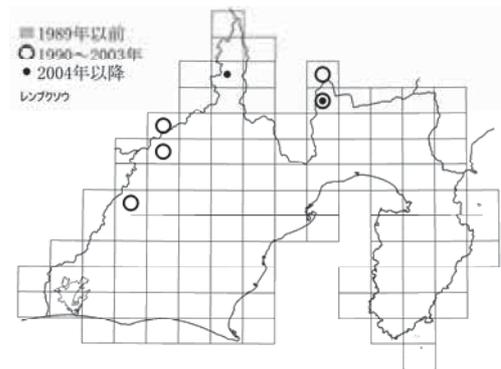
植生遷移(54)による生育圧力が主要因である。踏圧(51)や土壌の小規模な移動(71)も脅威である。

6. 保護対策

植生遷移や踏圧を防ぐために、生育地の立ち入りを禁止することが重要である。(宮崎一夫)



静岡市 2017年5月19日 宮崎一夫



ヤマヒョウタンボク *Lonicera mochidzukiana* Makino var. *nomurana* (Makino) Nakai

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。高さは1.5 mに達する。枝は4稜形で無毛。葉は円卵~長楕円形、長さ2.5~5 cm、幅1.5~3 cm。多くは鈍頭または円頭。両面に毛を散生、ときに葉裏脈上に白色開出毛がある。花期は5月、葉腋から1~2 cmの花柄を出し、その先に唇形の2花をつける。花冠は白色で長さ8~10 mm。液果は球形で中部まで合生し紅色に熟す。県内北部の温帯から亜高山帯にかけては、基本種のニッコウヒョウタンボクが分布するが、それらの葉は鋭尖頭または鋭頭である。

2. 分布

日本固有変種で、は本州(東海・近畿・中国地方)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯山地の尾根筋のような痩せた土地の明るい林内に生える。ときに石灰岩地や蛇紋岩地に見られる。

4. 生育状況

個体数はあまり多くない。

5. 減少の主要因と脅威

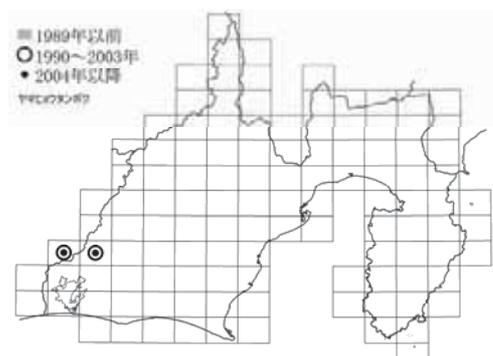
植生遷移による常緑広葉樹林化(54)が減少の主要因である。

6. 保護対策

明るい落葉広葉樹林を維持すること。(湯浅保雄)



浜松市 2017年4月29日 内藤宇佐彦



カノコソウ *Valeriana fauriei* Briq.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし]

スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。茎は直立し、高さ40~80 cm。節に白い長毛がある。葉は対生し、羽状に全裂する。羽片には深い鋸歯がある。花期は5~7月。集散花序に淡紅色の小さな花を密につける。花冠は5裂し、下部は細長い花筒となって、長さ5~7 mm。果実は披針形で長さ約4 mm、上部に冠毛状に伸びた萼がある。

2. 分布

国外では台湾、朝鮮半島、中国、ロシア(ウスリー、サハリン)に、国内では南千島、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地のやや湿った草地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、愛鷹山や十枚山の記録があるが、今回の調査では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

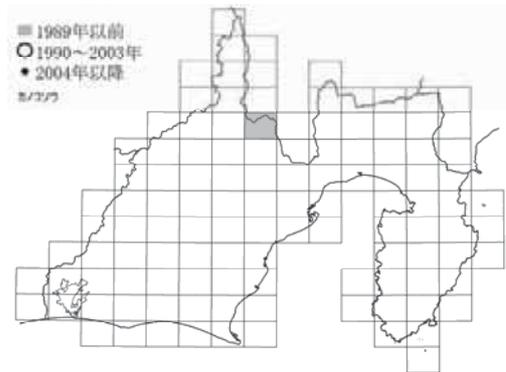
植生遷移(54)や山林伐採(11)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地の現植生を維持することと、山林伐採などで生育環境に急激な変化を与えないことと。(湯浅保雄)



滋賀県 2009年7月4日 宮崎一夫



ナベナ *Dipsacus japonicus* Miq.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし]

スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

越年草。高さ1~3 m。茎は直立して分枝する。全体に硬い刺がある。葉は対生して羽状に全裂する。花期は8~9月。頭花は径2 cm。総苞片は線形で反り返る。小花の花冠は長さ7 mm、淡紅紫色で上部は4裂して、葯が飛び出す。瘦果の総苞片は長さ5 mm、8肋がある。冬でも枯れて立ち、小花を包む鱗片の先が剛毛を伴って刺針となる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地の山麓、河原、林縁、林道沿いなど、疎草地に生育する。

4. 生育状況

産地も株数も少ない。植生遷移を嫌い、攪乱地を好む性質があり、年による株数の消長がある。

5. 減少の主要因と脅威

自然遷移(54)が主要因であるが、荒地を攪乱することは生育を増長するが、開発(16)されることは脅威である。

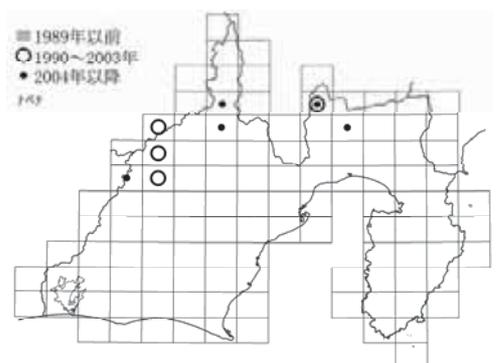
6. 保護対策

開発を控えても遷移が進行すれば生育できないので自然の攪乱に任せる。野焼きや草刈りも有効と思われる。

(宮崎一夫)



浜松市 2000年9月1日 宮崎一夫



(8) 文献

【植物文献一覧】

- 1 愛知県 (2001) 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータあいち—植物編—. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋市, 714 pp.
- 2 赤堀千里 他 (2009) 熱海市岩戸山の植物相. 神奈川県立博物館研究報告 自然科学, (38): 45-94
- 3 海老原 淳 (2016) 日本産シダ植物標準図鑑 I. 学研プラス, 東京, 475 pp.
- 4 海老原 淳 (2017) 日本産シダ植物標準図鑑 II. 学研プラス, 東京, 507 pp.
- 5 橋本 保・神田 淳・村川博実 (1991) カラー版 野生ラン. 家の光協会, 東京, 295 pp.
- 6 細倉哲穂 (2000a) 東駿・北豆のタキミシダ. 静岡県自然誌, (8): 217-220
- 7 細倉哲穂 (2000b) 東駿・北豆のナカミシシラン. 静岡県自然誌, (8): 221-224
- 8 細倉哲穂 (2000c) 東駿・北豆のスギラン. 静岡県自然誌, (9): 274
- 9 細倉哲穂 (2001) 東駿・北豆のタニヘゴ. 静岡県自然誌, (11): 331-334
- 10 細倉哲穂 (2002) 静岡県のコウライイヌワラビ. 静岡県のシダ II, p. 105. 自刊.
- 11 藤井伸二 (2016) シロガヤツリの新変種. *APG*, 67(2): 123-126
- 12 布施静香 (2001) ショウジョウバカマ属の多様性. *プランタ*, (75): 32-39
- 13 今井久子・関根洋子・栗原 淳・北原佳郎・永田浩司・堀井晃男 (2018) 静岡県島田市におけるスズメノハコベ *M. minima* (J. König ex Retz) Merr. の確認と保全. 東海自然誌, (10): 15-20
- 14 伊藤 洋 (1972) ヌリトラノオの新変種. 植物研究雑誌, 47(6): 186-187
- 15 岩槻邦男 編 (1992) 日本の野生植物 シダ. 平凡社, 東京, 516 pp.
- 16 イズミエイコ (1983) 野生ラン辞典. 月刊さつき研究社, 鹿沼市, 300 pp.
- 17 角野康郎 (1994) 日本水草図鑑. 文一総合出版, 東京, 179 pp.
- 18 角野康郎 (2014) ネイチャーガイド 日本の水草. 文一総合出版, 東京, 328 pp.
- 19 Kadota, Y. (1987) A revision of *Aconitum* subgenus *Aconitum* (Ranunculaceae) of east Asia. *Sanwa Shoyaku Company, Ltd., Utsunomiya*, 249 pp.
- 20 神奈川県植物誌調査会 編 (2001) 神奈川県植物誌 2001. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原, 1584 pp.
- 21 環境庁自然保護局野生生物課 編 (2000) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 —レッドデータブック— 8 植物 I (維管束植物). 財団法人 自然環境研究センター, 東京, 660 pp.
- 22 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 編 (2015) レッドデータブック 2014 —日本の絶滅のおそれのある野生生物— 8 植物 I (維管束植物). 株式会社ぎょうせい, 東京, 646 pp.
- 23 勝山輝男 (2015) ネイチャーガイド 日本のスゲ 増補改訂. 文一総合出版, 東京, 392 pp.
- 24 川合正晃 (2007) 天竜川河口部における刈り払い作業によるタコノアシの個体数の増減. 遠州の自然, 30: 53.
- 25 北川学・宮崎一夫 (2010) キヨスミウツボの新産地及びその環境と生態. 遠州の自然, 33: 13-17
- 26 北川学・山口海夢・宮崎一夫 (2006) 静岡県内にシロモジの大群落. 遠州の自然, 29: 42
- 27 北村孔志 (2005) 静岡新産のハタバカンガレイの生育地と水質について. すげの会会報, (11): 22-24
- 28 北村四郎・村田 源・小山鐵夫 (1964) 原色日本植物図鑑 草本編 III. 保育社, 大阪, 464 pp.
- 29 近田文弘 (2007) 伊豆須崎 海岸草木列伝. トンボ出版, 大阪, 271 pp.
- 30 小山鐵夫 (1955) 東亜産スゲ属の分類学的研究 (2). 植物研究雑誌, 30(10): 315-318

- 31 倉田悟 (1961) シダ類ノート (24) (イヨクジャク). 北陸の植物, 10(3): 67, 69
- 32 倉田悟 (1963) 日本のヤブソテツ属. 横須賀市博物館研究報告 自然科学, (8): 23-47
- 33 倉田悟・中池敏之 (1979) 日本のシダ植物図鑑 第1巻. 東京大学出版会, 東京, 628 pp.
- 34 倉田悟・中池敏之 (1981) 日本のシダ植物図鑑 第2巻. 東京大学出版会, 東京, 648 pp.
- 35 倉田悟・中池敏之 (1983) 日本のシダ植物図鑑 第3巻. 東京大学出版会, 東京, 728 pp.
- 36 倉田悟・中池敏之 (1985) 日本のシダ植物図鑑 第4巻. 東京大学出版会, 東京, 850 pp.
- 37 倉田悟・中池敏之 (1987) 日本のシダ植物図鑑 第5巻. 東京大学出版会, 東京, 816 pp.
- 38 倉田悟・中池敏之 (1990) 日本のシダ植物図鑑 第6巻. 東京大学出版会, 東京, 881 pp.
- 39 李 永魯 (2006) 韓国植物図鑑 II. 教学社, ソウル, 888 pp.
- 40 前川文夫 (1971) 原色日本のラン. 誠文堂新光社, 東京, 495 pp.
- 41 牧野富太郎 (1910) Observation on the flora of Japan. 植物学雑誌, 24: 141-142
- 42 宮崎一夫 (1992) 植物自生雑録 1991. 遠州の自然, (15): 43-45
- 43 宮崎一夫 (1993) 植物自生雑録 1992. 遠州の自然, (16): 39-42
- 44 宮崎一夫 (1994) 植物自生雑録 1993. 遠州の自然, (17): 39-46
- 45 宮崎一夫 (1995) 植物自生雑録 1994. 遠州の自然, (18): 25-27
- 46 宮崎一夫 (1996) 植物自生雑録 1995. 遠州の自然, (19): 17-19
- 47 宮崎一夫 (1997) 静岡県西部地方に自生するカタクリの生育環境. 遠州の自然, (20): 39-57
- 48 宮崎一夫 (2002) シバナの生育環境. 遠州の自然, (25): 31-41
- 49 宮崎一夫 (2006) ホソバノアマナの新産地. 遠州の自然, (29): 41
- 50 宮崎一夫 (2018) ヒメノヤガラを静岡県内で確認. 遠州の自然, (41): 34
- 51 宮崎一夫・岡本 研 (2007) シバナの生育環境土壌の粒度分析とC N分析. 遠州の自然, (30): 31-34
- 52 宮崎一夫・北川 学 (2014) ムカゴサイシンの新産地. 遠州の自然, (37): 64
- 53 茂木 透・勝山輝男・太田和夫・城川四郎 (2000) 樹に咲く花-離弁花 1. 山と溪谷社, 東京, 719 pp.
- 54 茂木 透・勝山輝男・太田和夫・城川四郎 (2000) 樹に咲く花-離弁花 2. 山と溪谷社, 東京, 719 pp.
- 55 邑田 仁 (1983) テンナンショウ属の1新種オドリコテンナンショウ. 植物研究雑誌, 58(1): 29-32
- 56 邑田 仁 (2011) 日本のテンナンショウ. 北隆館, 東京, 265 pp.
- 57 名倉智道 (1985) 遠州地方の植物覚書 (2). 遠州の自然, (8): 59-60
- 58 内藤宇佐彦 (2014) 静岡県産スゲ属植物調査ノート (1). 遠州の自然, (37): 32-34
- 59 内藤宇佐彦 (2016) 浜名湖西岸地域植物調査情報 [XII]. 遠州の自然, (39): 32-34
- 60 中池敏之 (1964) 甲斐産ウサギシダの一新変種. 北陸の植物, 17(4): 96-97
- 61 中池敏之 (1978) 改訂増補新版 日本植物誌 シダ篇. 至文堂, 東京, 289 pp.
- 62 中池敏之 (1992) 新日本植物誌 シダ篇. 至文堂, 東京, 868 pp.
- 63 中島睦子 (2012) 日本ラン科植物図譜. 文一総合出版, 東京, 408 pp.
- 64 西田 誠・栗田子郎 (1980) ハナヤスリ属の1新種. 植物研究雑誌, 54(4): 105-113
- 65 野寄玲児・小林禧樹・藤本義昭 (1998) 兵庫県新産のウンヌケ (イネ科) の分布とその生育環境. 植物分類・地理, 48(2): 197-204

- 66 奥山春季 (1966) 日本高山植物図譜. 誠文堂新光社, 東京, 348 pp.
- 67 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩 編 (2015) 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科～カヤツリグサ科. 平凡社, 東京, 666 pp.
- 68 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩 編 (2016) 改訂新版 日本の野生植物 2 イネ科～イラクサ科. 平凡社, 東京, 384 pp.
- 69 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩 編 (2016) 改訂新版 日本の野生植物 3 バラ科～センダン科. 平凡社, 東京, 604 pp.
- 70 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩 編 (2017) 改訂新版 日本の野生植物 4 アオイ科～キョウチクトウ科. 平凡社, 東京, 608 pp.
- 71 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩 編 (2017) 改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科～スイカズラ科. 平凡社, 東京, 760 pp.
- 72 大村敏朗 (1995) 静岡市西部植物誌 14. 静岡植物研究会, 静岡市, 175 pp.
- 73 大滝末男・石戸 忠 (1980) 日本水生植物図鑑. 北隆館, 東京, 318 pp.
- 74 長田武正 (2002) 増補日本イネ科植物図譜. 平凡社, 東京, 777 pp.
- 75 長田武正 (1989) 日本イネ科植物図譜. 平凡社, 東京, 759 pp.
- 76 佐橋紀男 (1983) 日本産ヒメハナワラビ属の分布について. 植物研究雑誌, 58(4): 13
- 77 佐藤千芳・前田哲弥・内野明德 (2004) 日本産フトイ属 (カヤツリグサ科) の 1 新種. 植物研究雑誌, 79(1): 23-28
- 78 斉藤全生 (1952) スジヒトツバ遠州に産す. 植物研究雑誌, 27(3): 72
- 79 芹沢俊介 (1971) シダ類の新変種 (スルガイノデ). 北陸の植物, 19(4): 104
- 80 芹沢俊介 (1981) 日本産テンナンショウ属の再検討(3). 植物研究雑誌, 56(3): 90-96
- 81 芹沢俊介 (2013) 愛知県のミヤマワレモコウ. シデコブシ, 2(2): 112-113
- 82 Shigeru Miki (1933) On the Sea-Grasses in Japan(1). *The Botanical Magazine, Tokyo*, 47(564): 842-862
- 83 清水建美 監修 (1998) 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社, 長野市, 1700 pp.
- 84 清水建美 編 (2014) 高山に咲く花 増補改訂新版. 山と溪谷社, 東京, 512 pp.
- 85 静岡県自然環境調査委員会 編 (2004) まもりたい静岡県の野生生物一県版レッドデータブックー〈植物編〉. 羽衣出版, 静岡, 338 pp.
- 86 志村義雄 (1966) 富士山西麓におけるホソバシヨリマの分布と生態. 日本生態学会誌, 16(4): 145-149
- 87 志村義雄 (1975) 静岡県のシダ植物相 (その 1). 静岡大学教育学部研究報告, (26): 41-105
- 88 志村義雄 (1987) 富士山のシダ. 自刊, 130 pp.
- 89 志村義雄 (1992) 日本のイノデ属 (シダ植物). 自刊, 160pp.
- 90 白鳥秀一・常木静河・花井隆晃・清田佳奈・芹沢俊介 (2017) 本州中部地方におけるマツムシソウ頭花形態の地理的変異. 分類, 17(2): 147-158
- 91 杉本順一 (1954) シロヤマゼンマイの不連続分布. 植物学研究雑誌, 25(5): 159
- 92 杉本順一 (1966) イッスンテンツキ遠州に産す. 植物採集ニュース, 25: 14
- 93 杉本順一 (1968) 日本植物雑記. 北陸の植物, 16(2): 46-51
- 94 杉本順一 (1976) トキワマンサク静岡県の西端に発見. 植物採集ニュース, (86): 29
- 95 杉本順一 (1978) 改訂増補 日本草本植物総検索誌 I 双子葉編. 井上書店, 東京, 871 pp.

- 96 杉本順一 (1984) 静岡県植物誌. 第一法規出版, 東京, 814 pp.
- 97 杉野孝雄 (1974) 静岡県のフロラに加える新植物(ムカゴトシボ). 植物採集ニュース, (71): 2
- 98 杉野孝雄 (1978) 駿遠植物調査資料 No.13. 遠州の自然, (1): 74
- 99 杉野孝雄 (1979) 駿遠植物調査資料 No.14. 遠州の自然, (2): 71
- 100 杉野孝雄 (1985) エンシュウムヨウランの観察. 遠州の自然, (8): 17-27
- 101 杉野孝雄 (1986) 駿遠植物調査資料 No.21. 遠州の自然, (9): 58
- 102 杉野孝雄 (1996) シモダカンアオイの再検討. 遠州の自然, (19): 7-11
- 103 杉野孝雄 (2000) 駿遠植物調査資料 No.35. 遠州の自然, (23): 72
- 104 杉野孝雄 (2001) 駿遠植物調査資料. 遠州の自然, (24): 51.
- 105 杉野孝雄 (2003) 静岡県のチャボハナヤスリとシムライノデの再発見. 日本シダの会会報, 3(37): 6
- 106 杉野孝雄 (2003) 富士山の高山シダ3題. 日本シダの会会報, 3(34): 10-11
- 107 杉野孝雄 (2009) 静岡県産希少植物図鑑. 静岡新聞社, 静岡, 131 pp.
- 108 須山知香・杉野孝雄・植田邦彦 (2008) アシタカマツムシソウ (マツムシソウ科) のレクタタイプ選定とソナレマツムシソウ. 植物研究雑誌, 83(4): 147-158
- 109 鈴木久雄 (1985) 龍山村瀬尻国有林のシロモジ. 遠州の自然, 8: 43
- 110 高橋秀男 (1990) 野草大図鑑. 北隆館, 東京, 727 pp.
- 111 高宮正之 (1999) ミズニラ属の自然誌と分類. 植物分類地理, 50: 101-138
- 112 滝田謙讓 (2001) 北海道植物図譜. 自刊, 1452 pp.
- 113 豊国秀夫 編 (1988) 日本の高山植物. 山と溪谷社, 東京, 718 pp.
- 114 植松春雄 (1995) 山梨の植物誌. 井上書店, 東京, 595 pp.
- 115 梅村甚太郎 (1923) 富士山植物誌. 任他楼, 名古屋, 388 pp.+28 pls.
- 116 矢原徹一 監修 (2003) 絶滅危惧植物図鑑レッドデータブック. 山と溪谷社, 東京, 719 pp.
- 117 矢原徹一・藤井伸二・伊藤元己・海老原淳 監修 (2015) 絶滅危惧植物図鑑レッドデータプランツ 増補改訂版. 山と溪谷社, 東京, 784 pp.
- 118 山崎 敬 編 (1985) 日本の高山植物. 平凡社, 東京, 139 pp.
- 119 遊川知久・中山博史・鷹野正次 (2015) 日本のラン ハンドブック (1) 低地・低山編. 文一総合出版, 東京, 136 pp.

【植物種別文献(図鑑類を除く)】

アイコハチジョウシダ 文献 No. 87
 アオキガハラウサギシダ 文献 No. 60, 87
 アオチャセンシダ 文献 No. 87
 アオネカズラ 文献 No. 87
 アスヒカズラ 文献 No. 87
 アマギカンアオイ 文献 No. 102
 アマギテンナンショウ 文献 No. 80
 アマナ 文献 No. 45

イズヤブソテツ 文献 No. 32, 87
 イチヨウラン 文献 No. 45
 イッスンテンツキ 文献 No. 92
 イナデンダ 文献 No. 87
 イヨクジャク 文献 No. 31, 87
 イワイヌワラビ 文献 No. 87
 イワタカンアオイ 文献 No. 93
 イワヤシダ 文献 No. 87
 ウスバミヤマノコギリシダ 文献 No. 87

ウライイヌワラビ 文献No. 10, 87
 ウンヌケ 文献No. 65
 エンシュウムヨウラン 文献No. 100
 オオアカウキクサ 文献No. 87
 オオサワトリカブト 文献No. 19
 オオハイホラゴケ 文献No. 87
 オクヤマワラビ 文献No. 87
 オトコシダ 文献No. 87
 オドリコカグマ 文献No. 87
 オドリコテンナンショウ 文献No. 55
 オニイノデ 文献No. 87
 オニゼンマイ 文献No. 87, 88
 オノエラン 文献No. 43
 カゲロウラン 文献No. 45
 カタクリ 文献No. 47
 カツモウイノデ 文献No. 87
 カラフトメンマ 文献No. 87
 ガンゼキラン 文献No. 46
 キタダケオドリコソウ 文献No. 104
 キタダケデンダ 文献No. 87
 キバナノアマナ 文献No. 59
 キヨスミウツボ 文献No. 25
 キレハオオクボシダ 文献No. 87
 キンセイラン 文献No. 44
 クサタチバナ 文献No. 59
 クマガイソウ 文献No. 59
 クロミノイタチシダ 文献No. 87
 クロヤツシロラン 文献No. 43
 ケホシダ 文献No. 87
 コアツモリソウ 文献No. 43
 コタニワタリ 文献No. 87
 サンショウモ 文献No. 87
 シバナ 文献No. 48, 51, 98
 シムライノデ 文献No. 87, 105
 ジュンサイ 文献No. 46
 シロガヤツリ 文献No. 11
 シロバナショウジョウバカマ 文献No. 2, 12
 シロモジ 文献No. 26, 109
 シロヤマゼンマイ 文献No. 87, 89
 スギラン 文献No. 8, 87
 スジヒトツバ 文献No. 78, 87
 スズメハコベ 文献No. 13
 スルガイノデ 文献No. 79, 87, 89
 セイタカイワヒメワラビ 文献No. 87
 セツブンソウ 文献No. 99
 センジョウデンダ 文献No. 87
 センダイスゲ 文献No. 58
 ソナレマツムシソウ 文献No. 90, 108
 タカノハウラボシ 文献No. 87
 タキミシダ 文献No. 6, 87
 タコノアシ 文献No. 24, 45
 タシロラン 文献No. 43
 タチアマモ 文献No. 97
 タニヘゴ 文献No. 9, 87
 チシマヒカゲノカズラ 文献No. 87
 チチブホラゴケ 文献No. 87
 チャボハナヤスリ 文献No. 64
 チョウセンナニワズ 文献No. 101
 ツクシイヌワラビ 文献No. 87
 ツクシイワヘゴ 文献No. 87
 ツクシヤブソテツ 文献No. 87
 ツレサギソウ 文献No. 46
 テツホシダ 文献No. 87
 テバコワラビ 文献No. 87
 デンジソウ 文献No. 87
 テンリュウヌリトラノオ 文献No. 14
 トキワマンサク 文献No. 94
 ナガエミクリ 文献No. 46
 ナガサキシダ 文献No. 87
 ナカミシシラン 文献No. 7, 87
 ナンカクラン 文献No. 87
 ニオイシダ 文献No. 87
 ニシノコハチジョウシダ 文献No. 87
 ニセコクモウクジャク 文献No. 87
 ニッコウシダ 文献No. 87
 ヌカイタチシダモドキ 文献No. 87
 ハイコモチシダ 文献No. 87
 ハシナガカンスゲ 文献No. 30
 ハタベカンガレイ 文献No. 27, 77
 ハチジョウシダ 文献No. 87

ハチジョウシダモドキ 文献 No. 87
ハマハナヤスリ 文献 No. 87
ハルザキヤツシロラン 文献 No. 43
ヒノキシダ 文献 No. 87
ヒメウラジロ 文献 No. 87
ヒメコウホネ 文献 No. 41
ヒメノヤガラ 文献 No. 50
ヒメハシゴシダ 文献 No. 87
ヒメハナワラビ 文献 No. 87,
ヒメフタバラン 文献 No. 43
ヒモラン 文献 No. 87
ヒロハヤブソテツ 文献 No. 32, 87
フキヤミツバ 文献 No. 74
フジイノデ 文献 No. 87
ベニバナヤマシャクヤ 文献 No. 42
ホオノカワシダ 文献 No. 87
ホソバショリマ 文献 No. 86, 87
ホソバノアマナ 文献 No. 49
マツバラン 文献 No. 87
ミクリ 文献 No. 46
ミズニラ 文献 No. 111

ミドリワラビ 文献 No. 87
ミヤマツチトリモチ 文献 No. 42
ミヤマハナワラビ 文献 No. 20, 87, 106
ミヤマムギラン 文献 No. 43
ミヤマワレモコウ 文献 No. 81
ムカゴサイシン 文献 No. 52
ムカゴトンボ 文献 No. 97
メニッコウシダ 文献 No. 87
ヤクカナワラビ 文献 No. 87
ヤクシマアカシユスラン 文献 No. 46
ヤクシマハウビシダ 文献 No. 87
ヤツガタケシノブ 文献 No. 87
ヤマソテツ 文献 No. 7
ヤマトキソウ 文献 No. 53
ユノミネシダ 文献 No. 87
リュウビンタイ 文献 No. 87
ルリデライヌワラビ 文献 No. 87
レンゲショウマ 文献 No. 42

(9) 標本(静岡県レッドリスト)

◆ 国立科学博物館 377種

(標本・資料データベース http://db.kahaku.go.jp/webmuseum/search?cls=col_b1_01 より)

【絶滅危惧ⅠA類】

チシマヒカゲノカズラ、ヒモラン、チャボハナヤスリ、スジヒトツバ、デンジソウ、サイゴクホン
グウシダ、スルガイノデ、シムライノデ、ヒロハヒメウラボシ、オドリコテンナンショウ、ア
マギテンナンショウ、シバナ、ヒロハノアマナ、スルガジョウロウホトトギス、イワチドリ、キ
ソエビネ、キンセイラン、サルメンエビネ、ホテイラン、カンラン、キバナノアツモリソウ、ア
ツモリソウ、クモイジガバチ、ムカゴサイシン、エゾイトイ、イッスンテンツキ、ヤマオオウシ
ノケグサ、キタダケイチゴツナギ、ベニバナヤマシャクヤク、タカネマンテマ、カンチャチハコ
ベ、ソナレセンブリ、カワラノギク、ヤマタバコ

【絶滅危惧ⅠB類】

セイタカイワヒメワラビ、ハチジョウシダ、ニシノコハチジョウシダ、ヤクシマホウビシダ、カ
ミガモシダ、イチョウシダ、コウライイヌワラビ、ミドリワラビ、コガネシダ、ヒロハアツイタ、
ナガサキシダ、タカネシダ、オニイノデ、クラガリシダ、ミョウギシダ、ヒツジグサ、シコクヒ
ロハテンナンショウ、オオミネテンナンショウ、ホンゴウソウ、ミカワバイケイソウ、コシノコ
バイモ、マヤラン、ハコネラン、トラキチラン、ナヨテンマ、フジチドリ、フガクスズムシソウ、
ヒナチドリ、カモメラン、シロウマチドリ、トキソウ、ヒメシャガ、イズアサツキ、ゴマシオホ
シクサ、ハシナガカンスゲ、タカネナルコ、ミカワシンジュガヤ、タカネタチイチゴツナギ、タ
チイチゴツナギ、ミヤマカニツリ、キタダケカニツリ、オオサワトリカブト、オキナグサ、ヒキ
ノカサ、トキワマンサク、ハゴロモグサ、ヨコグラノキ、フジタイゲキ、アゼオトギリ、ヒメビ
シ、タチバナ、クモイナズナ、シロウマナズナ、コギシギシ、ナガバノイシモチソウ、ウメウツ
ギ、オオツルコウジ、サワトラノオ、クリンソウ、サクラソウ、ナガボナツハゼ、サンブクリン
ドウ、コヒナリンドウ、オノエリンドウ、アカイシリンドウ、ヒメセンブリ、シノノメソウ、ム
ラサキ、ヤマホオズキ、シシンラン、カイジンドウ、キセワタ、コナミキ、ヒメシロアサザ、ア
ズマギク、アベトウヒレン、ヒメヒゴタイ、コウリンカ、コゴメヒョウタンボク、イワツクバネ
ウツギ、フキヤミツバ

【絶滅危惧Ⅱ類】

スギラン、ミズニラ、ヒメハナワラビ、マツバラン、シロヤマゼンマイ、サンショウモ、アカウ
キクサ、オオアカウキクサ、ユノミネシダ、タキミシダ、ナカミシシラン、アイコハチジョウシ
ダ、ハチジョウシダモドキ、ヒノキシダ、ホソバショリマ、テバコワラビ、イワヤシダ、イヨク
ジャク、ニセコクモウクジャク、イワウサギシダ、カツモウイノデ、イズヤブソテツ、ヒロハヤ
ブソテツ、ツクシヤブソテツ、ヌカイタチシダマガイ、アツギノヌカイタチシダマガイ、タニヘ
ゴ、オニバス、カギガタアオイ、イワタカンアオイ、アマギカンアオイ、ズソウカンアオイ、シ
ロモジ、ヒトツバテンナンショウ、ミミガタテンナンショウ、ヒンジモ、アギナシ、カワツルモ、
イズドコロ、チャボホトトギス、ナツエビネ、ナギラン、コアツモリソウ、クマガイソウ、イチ
ヨウラン、ハルザキヤツシロラン、ミズトンボ、ムカゴソウ、カゲロウラン、エンシュウムヨウ
ラン、ヒメムヨウラン、ウチヨウラン、ニョホウチドリ、オオバナオオヤマサギソウ、ヤマトキ
ソウ、ムカデラン、キバナノショウキラン、カキツバタ、ミズアオイ、ヒメミクリ、シラタマホ

シクサ、イトテンツキ、ミヤマジュズスゲ、ホソバヒカゲスゲ、カタスゲ、スルガスゲ、オノエスゲ、ヌイオスゲ、ヒゲハリスゲ、ハタベカンガレイ、カガシラ、ミヤマハルガヤ、ミギワトダシバ、アズマガヤ、ヒナザサ、ウンヌケモドキ、ウンヌケ、ハネガヤ、リシリカニツリ、カザグルマ、ハコネシロカネソウ、ミスミソウ、タマカラマツ、ヤシヤビシヤク、ヒトツバシヨウマ、マツノハマネングサ、ミヤマトベラ、ウラジロキンバイ、ハコネグミ、ジゾウカンバ、シラヒゲソウ、ノウルシ、キスミレ、チョウセンナニワズ、クモマナズナ、ミヤマツチトリモチ、ヌカボタデ、イシモチソウ、オオビランジ、シコタンハコベ、エンシュウツリフネソウ、オオサクラソウ、コイワザクラ、クモイコザクラ、シナノコザクラ、カインアンサラサドウダン、キョウマルシヤクナゲ、オオヤマツツジ、ホソバノツルリンドウ、ムラサキセンブリ、ヒメナエ、チョウジソウ、ハマネナシカズラ、ヤマジソ、シマジタムラソウ、イズコゴメグサ、タヌキモ、ムラサキミミカキグサ、ツルギキョウ、バアソブ、キキョウ、ガガブタ、トダイハハコ、キタダケヨモギ、ユキヨモギ、シブカワシロギク、ウラギク、アキノハハコグサ、ヤナギノギク、タカサゴソウ、クモマニガナ、ハチジョウナ、クサノオウバノギク、スルガヒョウタンボク、チシマヒョウタンボク、ソナレマツムシソウ、ミシマサイコ、ホソバハナウド

【準絶滅危惧】

テンリュウヌリトラノオ、オトメアオイ、エビアマモ、シラン、マメヅタラン、ムギラン、ミヤマムギラン、エビネ、キンラン、タシロラン、クロヤツシロラン、ミクリ、ナガエミクリ、クロイヌノヒゲ、クモマスズメノヒエ、ヒメコヌカグサ、ヤマシヤクヤク、キバナハナネコノメ、ムカゴネコノメソウ、ツメレンゲ、タコノアシ、サンシヨウバラ、サクラバハンノキ、ミズマツバ、サクラガンピ、ヤナギヌカボ、クロミノニシゴリ、アマギツツジ、アマギシヤクナゲ、アシタカツツジ、シブカワツツジ、ハコネコメツツジ、イヌセンブリ、クサナギオゴケ、スズサイコ、アオホオズキ、イヌノフグリ、タチキランソウ、マネキグサ、ミゾコウジュ、オオヒキヨモギ、タテヤマギク、イズカニコウモリ、モリアザミ、ワタムキアザミ、イズハハコ、カワラニガナ、タカネコウリンカ

【情報不足】

ヒメウラジロ、ミズタカモジ

【要注目種：現状不明】

ヤツガタケシノブ、アオチャセンシダ、ニッコウシダ、ツクシイヌワラビ、ヒゲノガリヤス、ヒロハノカワラサイコ、クモイザクラ、トネリコ、ゴマノハグサ、セイタカトウヒレン

【要注目種：分布上注目種等】

リュウビнтаイ、オドリコカグマ、ヒメハシゴシダ、ハイコモチシダ、タカサゴシダ、オキナワハイネズ、ヒメカラマツ、ミカワチャルメルソウ、モクレイシ、ハクセンナズナ、ミヤマツメクサ、ウンゼンツツジ、トウヤクリンドウ、シブカワニンジン

【要注目種：部会注目種】

アスヒカズラ、ハマハナヤスリ、オオハイホラゴケ、チチブホラゴケ、エダウチホンゴウシダ、コタニワタリ、テツホシダ、メニッコウシダ、ミゾシダモドキ、イワイヌワラビ、ウスバミヤマノコギリシダ、ツクシイワヘゴ、ヌカイタチシダモドキ、アオネカズラ、ミツバテンナンシヨウ、ミズオオバコ、シュスラン、コハクラン、アオフタバラン、ホザキイチョウラン、アリドオシラン、ヤマアゼスゲ、ヒカゲシラスゲ、コマツカサススキ、マツカサススキ、コミヤマヌカボ、ハ

クサンイチゴツナギ、ムカゴツツリ、イチリンソウ、キクザキイチゲ、アズマイチゲ、レンゲシ
ョウマ、オオカラマツ、ツゲ、ミヤマモミジイチゴ、ホウロクイチゴ、ヒゴスミレ、ナガバノウ
ナギツカミ、モロコシソウ、イナモリソウ、フナバラソウ、マメダオシ、ハマクワガタ、アシタ
カジャコウソウ、イワシャジン、シデシャジン、ノッポログンクビソウ、ミズギク、オナモミ、
ヤマヒョウタンボク

◆ ふじのくに地球環境史ミュージアム

(湯浅保雄コレクション 269種)

【絶滅危惧ⅠA類】

オドリコテンナンショウ、アマギテンナンショウ、ヒロハノアマナ、スルガジョウロウホトトギ
ス、ホテイラン、クゲヌマラン、ムカゴサイシン、ソナレセンブリ、ヤマタバコ

【絶滅危惧ⅠB類】

イチョウシダ、シコクヒロハテンナンショウ、オオミネテンナンショウ、コシノコバイモ、カイ
コバイモ、ユウシュンラン、マヤラン、ハコネラン、ナヨテンマ、クロクモキリソウ、サカネラ
ン、カモメラン、トキソウ、イズアサツキ、ハシナガカンスゲ、キタダケカニツリ、ナガミノツ
ルケマン、ヒロハヘビノボラズ、オオサワトリカブト、ヒキノカサ、タチモ、イヌハギ、フジタ
イゲキ、カンコノキ、ミヤマスミレ、コギシギシ、ウメウツギ、サワトラノオ、サクラソウ、ナ
ガボナツハゼ、サンブクリンドウ、アカイシリンドウ、シノノメソウ、ムラサキ、キセワタ、ア
ベトウヒレン、ヒメヒゴタイ、コウリンカ、イワツクバネウツギ

【絶滅危惧Ⅱ類】

ミズニラ、マツバラ、アカウキクサ、オオアカウキクサ、ユノミネシダ、ヒノキシダ、タニヘ
ゴ、カギガタアオイ、イワタカンアオイ、アマギカンアオイ、ズソウカンアオイ、シロモジ、ヒ
トツバテンナンショウ、ミミガタテンナンショウ、ヒンジモ、イズドコロ、キバナノアマナ、チ
ャボホトトギス、ナツエビネ、ナギラン、クマガイソウ、イチヨウラン、ハルザキヤツシロラン、
カゲロウラン、ヒメムヨウラン、ウチョウラン、ニョホウチドリ、ミズチドリ、ツレサギソウ、
オオヤマサギソウ、ヤマトキソウ、ムカデラン、キバナノショウキラン、カキツバタ、ヤマトミ
クリ、イトテンツキ、ミヤマジュズスゲ、オオタマツリスゲ、ホソバヒカゲスゲ、スルガスゲ、
ジングウスゲ、オニナルコスゲ、コツブヌマハリイ、アズマガヤ、ウンヌケ、ハネガヤ、リシリ
カニツリ、カザグルマ、ハコネシロカネソウ、ミスミソウ、フッキソウ、コウヤミズキ、ヤシャ
ビシヤク、ヒトツバショウマ、マツノハマネングサ、ミヤマトベラ、キンロバイ、ハコネグミ、
クロツバラ、ジゾウカンバ、ノウルシ、サクラスミレ、キスミレ、アサマフウロ、トダイアカバ
ナ、チョウセンナニワズ、クモマナズナ、ミヤマツチトリモチ、ヌカボタデ、オオビランジ、シ
コタンハコベ、オオサクラソウ、コイワザクラ、ホソバノツルリンドウ、ムラサキセンブリ、チ
ョウジソウ、ハマネナシカズラ、オオアブノメ、トラノオスズカケ、ラショウモンカズラ、ヒメ
ハッカ、ヤマジソ、シマジタムラソウ、ヒメナミキ、イズコゴメグサ、イヌタヌキモ、タヌキモ、
ツルギキョウ、キキョウ、ガガブタ、トダイハハコ、キタダケヨモギ、ユキヨモギ、シブカワシ
ロギク、ウラギク、アキノハハコグサ、ヤナギタンポポ、ホソバニガナ、スルガヒョウタンボク、
チシマヒョウタンボク、ニッコウヒョウタンボク、ミシマサイコ、ホソバハナウド

【準絶滅危惧】

ジュンサイ、オトメアオイ、シラン、マメツタラン、ムギラン、ミヤマムギラン、エビネ、キンラン、セッコク、タシロラン、クロヤツシロラン、ウスギムヨウラン、ミクリ、ナガエミクリ、センダイスゲ、ヤマシヤクヤク、キバナハナネコノメ、ムカゴネコノメソウ、ツメレンゲ、タコノアシ、サンショウバラ、サクラバハンノキ、コオトギリ、ミズマツバ、ウスゲチョウジタデ、サクラガンピ、ヤナギヌカボ、アマギツツジ、アマギシヤクナゲ、アシタカツツジ、シブカワツツジ、イヌセンブリ、スズサイコ、アオホオズキ、イヌノフグリ、カリガネソウ、タチキランソウ、マネキグサ、ミゾコウジュ、オオヒキヨモギ、サワギキョウ、タテヤマギク、イズカニコウモリ、モリアザミ、ワタムキアザミ、イズハハコ、カワラニガナ、タカネコウリンカ

【要注目種：現状不明】

ヤマブキソウ

【要注目種：分布上注目種等】

ヒナガリヤス、ムラサキモメンヅル、ビロードイチゴ、モクレイシ、ウンゼンツツジ、ヒロハコンロンカ、トウヤクリンドウ、シブカワニンジン、ミツガシワ

【要注目種：部会注目種】

アスヒカズラ、ミゾシダモドキ、ヌカイタチシダモドキ、アオネカズラ、ウスバサイシン、バリバリノキ、ミツバテンナンショウ、ヒナノシヤクジョウ、アマナ、オオウバユリ、カタクリ、ギンラン、アオキラン、アケボノシュスラン、ヒメフタバラン、アオフタバラン、ホザキイチヨウラン、アリドオシラン、ヒトツボクロ、コキンバイザサ、ヒメニラ、オオキツネノカミソリ、サツマスゲ、コマツカサススキ、コウヤザサ、ヤマトボシガラ、ハクサンイチゴツナギ、ムカゴツヅリ、イチリンソウ、キクザキイチゲ、アズマイチゲ、レンゲショウマ、ツゲ、ムカゴユキノシタ、アズマツメクサ、カワラサイコ、ミヤマモミジイチゴ、カラハナソウ、ミヤマニガウリ、イワウメヅル、ヒゴスミレ、コイヌガラシ、ナガバノウナギツカミ、ヒゲネワチガイソウ、モロコシソウ、イナモリソウ、フナバラソウ、アシタカジャコウソウ、ホナガタツナミソウ、ヒキヨモギ、キヨスミウツボ、イワシヤジン、シデシヤジン、ノッポロガンクビソウ、ミズギク、ノニガナ、ヤマヒョウタンボク、レンプクソウ、ナベナ